

VE8900/VE8950/VE8952

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、VE8900/VE8950/VE8952 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告なく改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2025 年 12 月 3 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載されたすべての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告なく改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティーシステム、放送システム、医療システムなどにおける可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューターなど、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダーの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能をすべて発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失などの損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付随的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意の上、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故などによるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズムなどの予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②型番 CL からはじまる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	3年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキットなどのアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承りません。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合などにより修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社ウェブページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社ウェブページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行いますが、それにもかかわらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境などによってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社ウェブサイト(<https://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューターなど、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダーの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能をすべて発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品の KVM スイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダーなどとの組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
目次	1
適合性に関する宣言	5
安全にお使いいただくために	7
全般	7
ラックマウント	9
同梱品	10
VE8900T	10
VE8900R	10
VE8950T	10
VE8950R	10
VE8952T	11
VE8952R	11
本マニュアルについて	12
マニュアル表記について	13
第1章 はじめに	14
概要	14
特長と利点	15
使用前の下準備	19
第2章 ハードウェアセットアップ	20
製品各部名称	20
VE8900T/VE8950T/VE8952T(トランスミッター)	20
VE8900R/VE8950R/VE8952R(レシーバー)	22
VE8900/VE8950/VE8952 の取り付け	24
壁へのマウント	24
ラックマウント	24
VE8900/VE8950 の接続	25
VE8952 の接続	28
第3章 パネル操作	31
概要	31

状態 LED	31
パネル各部名称	32
デバイスパネルを使ったソースの割り当て方法	34
第 4 章 管理	35
概要	35
ログイン IP アドレスの検索	36
OSD からログイン IP アドレスを確認するには	36
VE マネージャーへのログインと設定	37
メイン画面	41
適用/自動適用	43
VE マネージャーを使ったソースの割り当て方法	44
システム設定からソースを割り当てる方法	45
再起動が必要な場合	46
ビデオウォールの設定	47
ビデオウォールのレイアウト作成	48
ビデオウォールのレイアウト編集	51
プレビューの編集	52
プロファイル	54
プロファイルの作成	54
プロファイルの編集/削除/切断	56
プロファイルの選択/適用	58
プロファイルのスケジュール設定	59
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの管理	62
VE8900/VE8950/VE8952 の状態確認	62
第 5 章 システム設定	63
概要	63
全般設定	63
トランスミッターの設定	65
レシーバーの設定	67
一括設定	70
メンテナンス	72
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのファームウェアアップグレード	72
全デバイスの同期	73
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のバックアップ	73
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のリストア	74
リカバリーモード	75

アカウントの設定	76
第 6 章 CLI コマンド	77
概要	77
操作を始める前に	77
コマンドの実行	78
コマンド	80
基本操作	80
ソースの切り替え	81
ビデオ・USB・RS-232・IR パスの切り替え	82
ビデオ・USB・RS-232・IR パスの無効化	83
ポート切替アラートの表示	84
システム設定の確認	85
ビデオウォールの設定	86
VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーやビデオウォールのミュート	88
ビデオ出力の無効化	89
レシーバーにおける OSD 表示の有効化/無効化	90
EDID モードの設定	91
VE8900/VE8950/VE8952 の再起動	92
ボーレートの設定	93
デバイスの状態表示	94
トランスミッターにおけるオーディオソースの設定	95
工場出荷時のデフォルト値の復元	96
トランスミッターにおける HDCP の有効化/無効化	97
レシーバーにおける高速切替出力解像度の設定	98
プロファイル名または ID によるプロファイルの適用	99
HDMI ブラックスクリーン出力の有効化/無効化	100
CLI Telnet の有効化/無効化	101
HTTP ウェブアクセスの有効化/無効化	102
第 7 章 モバイル制御アプリ	103
概要	103
システム要件	103
アプリのインストールと設定	103
メイン画面	104
ライブビュー	105
ソースの切り替え	105
複数ソース/ディスプレイの切り替え	107

ビデオウォール/ディスプレイにおける操作モードの変更.....	110
表示プロファイルの適用.....	111
プロファイルのスケジュール設定.....	112
システムの設定と状態.....	114
付録.....	115
製品仕様.....	115
VE8900.....	115
VE8950.....	118
VE8952.....	120
対応ブラウザ.....	122

適合性に関する宣言

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のパート15に準拠したデジタル装置クラスAの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供するためのものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

この機器は、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としていません。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FCC による注意

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。

提案

FCC および CE 規格に準拠するには、製品本体にシールド付きツイストペア(STP)ケーブルを使用する必要があります。



HDMI 商標に関する宣言

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。



RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

安全にお使いいただくために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品パッケージに同梱のすべてのドキュメントに目を通してください。また、ドキュメント類は、後で見返せるようにすべて保存してください。
- ◆ デバイスに記載されている警告や指示に従ってください。
- ◆ デバイスを不安定な面(カート、簡易スタンド、テーブルなど)に置かないでください。デバイスが落下すると、深刻な損傷が生じます。
- ◆ デバイスを水の近くで使用しないでください。
- ◆ デバイスを冷却装置や加熱機器の近く、またはその上に置かないでください。
- ◆ 排熱機構のないデバイスを、組み込みエンクロージャーに置かないでください。
- ◆ デバイスにいかなる種類の液体もこぼさないでください。
- ◆ 本体のお手入れの際には、デバイスのプラグを壁のコンセントから抜いてください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ デバイスは、マーキングラベルに示されたタイプの電源で動作させる必要があります。利用可能な電源の種類がご不明な場合は、販売店もしくは最寄りの電力会社にお問い合わせください。
- ◆ システムへの損傷を避けるために、すべてのデバイスを適切に接地することが重要です。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。電源コードやケーブルを踏んだり、これらにつまずいたりしないよう、配線してください。
- ◆ 映像・ネットワーク・電源用のケーブルは、丁寧に取り扱いってください。ケーブルの上には何も置かないでください。
- ◆ 本体の端子に物を押し込まないでください。危険な電圧ポイントへの接触や、部品のショート、また、火災や電氣的な衝撃の危険性があります。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。保守については、適格な保守担当者にお問い合わせください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、デバイスのプラグを壁のコンセントから抜いて、技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードやプラグが損傷したり擦り切れたりしている。
 - デバイスに液体がこぼれた。
 - デバイスが雨や水に濡れた。

- デバイスが落下した、またはキャビネットが破損している。
 - デバイスの動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、必ず製品マニュアルに従って操作してください。マニュアルに記載されていない方法で調整を行うと、修理資格のある技術者による広範な作業を必要とするおそれがあります。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を行う前に、スタビライザーがラックと床に固定されていることと、ラックの重心が安定していることを確認してください。
- ◆ ラックへの機器搭載は、必ず下から上に向かって行ってください。また、最も重いアイテムを下から搭載してください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する電源が過負荷にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は最大でも80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックからの排熱やラックへの通気が十分に行えるようにしてください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度の範囲内で使用できるように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

VE8900/VE8950/VE8952 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

VE8900T

- ◆ VE8900T Video over IP トランスミッター (HDMI 対応) ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド ×1

VE8900R

- ◆ VE8900R Video over IP レシーバー (HDMI 対応) ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド ×1

VE8950T

- ◆ VE8950T Video over IP トランスミッター (4K HDMI 対応) ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド ×1

VE8950R

- ◆ VE8950R Video over IP レシーバー (4K HDMI 対応) ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド ×1

VE8952T

- ◆ VE8952T Video over IPトランスミッター(4K&PoE 対応) ×1
- ◆ 3極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ フットパッド(4pcs) ×1
- ◆ クイックスタートガイド ×1

VE8952R

- ◆ VE8952R Video over IPレシーバー(4K&PoE 対応) ×1
- ◆ 3極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ フットパッド(4pcs) ×1
- ◆ クイックスタートガイド ×1

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、VE8900/VE8950/VE8952 および ATEN VE マネジャーの取り付け、セットアップ、操作を正しく行うための手順と情報をまとめたものです。マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに: VE8900/VE8950/VE8952 の特長、機能概要および導入前の下準備について説明します。

第2章 ハードウェアセットアップ: VE8900/VE8950/VE8952 の基本的なハードウェアセットアップの手順と操作方法について説明します。

第3章 パネル操作: VE8900/VE8950/VE8952 本体にあるプッシュボタンの LED 表示について説明します。

第4章 管理: VE マネジャーのメイン画面の概要、およびディスプレイレイアウトの作成と編集方法について説明します。

第5章 システム設定: 全般設定に関する情報、および VE8900/VE8950/VE8952 システムファームウェアのバックアップ/リストア/アップグレードの方法について説明します。

第6章 CLI コマンド: Telnet、TCP、あるいは RS-232 シリアル通信を使ってセッションを確立するのに必要となる設定について説明します。また、対応する CLI コマンドの一覧も提供しています。

第7章 モバイル制御アプリ: モバイル制御アプリのセットアップ、設定、操作の各方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

-
- 注意:**
- ◆ 製品や接続機器の破損を防ぐため、設置および操作の前に本マニュアルを必ずお読みください。
 - ◆ 本マニュアル発行後に、製品仕様や機能が変更される場合があります。最新のユーザーマニュアルは、以下の Web サイトで確認してください。
<http://www.aten.com/global/en>
-

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は Enter キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名などは、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

ATEN VE890 / VE8950 / VE8952 は、IP で映像を長距離伝送できるマルチキャスト通信型 Video over IP エクステンダーです。低遅延で、画質劣化を抑えた映像伝送が可能です。

VE890 は最大 1080p に対応します。

VE8950 / VE8952 は最大 4K 解像度に対応します。

- ◆ 高い拡張性と柔軟なシステム構成
- ◆ 簡単な IP 設定
- ◆ 専用サーバー不要
- ◆ レシーバーユニットで、デイジーチェーン接続対応
- ◆ PoE 給電対応モデルで設置場所の自由度が高い
- ◆ モバイルアプリによる遠隔操作対応

本製品を使用することで、デジタルサイネージシステムを効率的に構築、複数のディスプレイへ映像を配信できます。ネットワークスイッチの規模を拡大することで大規模な表示システムにも対応します。

想定用途

- ◆ 会議室
- ◆ 展示会場
- ◆ 空港
- ◆ 大学
- ◆ 研修施設
- ◆ ショッピングモールなど

多画面表示が求められる環境に適しています。

特長と利点

[遅延が非常に少ない軽量化圧縮]

- ◆ 1080p@60Hz (VE8900)、4K (VE8950/VE8952)の映像を、低遅延で伝送可能。
- ◆ ATEN 独自の圧縮技術により、高画質を維持したまま安定表示。
- ◆ EDID Expert 機能により、接続先ディスプレイに最適な解像度を自動/手動で調整可能。
- ◆ 圧縮レベルは用途に応じて選択可能。スムーズ、バランス、高画質モードを用意。

[PoE 対応] ※VE8952 のみ

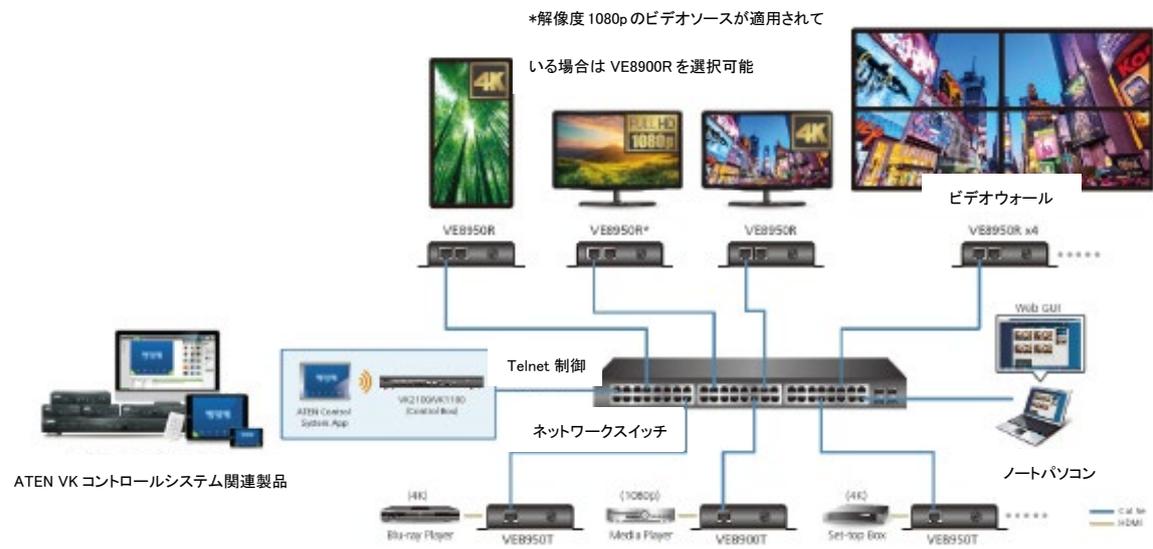
- ◆ 電源ケーブル不要。PoE 給電により設置場所の自由度が向上。
- ◆ 電源コンセントを確保できない場所でも設置可能。

[制限のない拡張性および柔軟性]

- ◆ LAN 経由で 1 対 1、1 対多、多対多の構成に対応。
- ◆ エクステンダー、分配器、マトリックススイッチャーとして利用可能。
- ◆ 表示機器の最大解像度に合わせてアップスケーリング対応。
- ◆ 4K モデル (VE8950/VE8952) および 1080p モデル (VE8900) のラインナップ。

[ATEN コントロールシステムとの連携]

- ◆ ATEN コントロールシステムと統合可能。
- ◆ CLI(Telnet)または RS-232 経由で他社製コントロールシステムからも直接制御可能。
- ◆ 簡単操作 - VE マネージャー、TV、プロジェクター、ソースプレイヤーや関連機器の操作を、コントロールシステムから 1 クリックで実現



-
- 注意:**
- ◆ PoE 機能に対応しているのは VE8952 のみです。
 - ◆ ネットワークスイッチの選定や帯域要件は、「VE89 シリーズ導入ガイド」や「VE89 シリーズネットワーク構築ガイド」を参照してください。
-

[自由度の高いスケジュール管理機能]

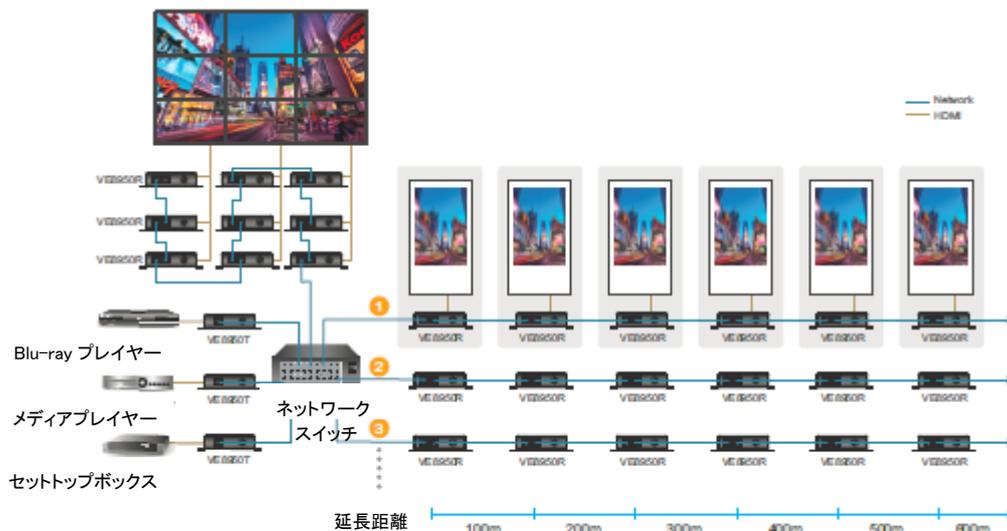
- ◆ 表示タスクのスケジュールを事前に設定できます。
- ◆ カレンダー形式でイベントを日別・時間別に管理可能。
- ◆ 複数のレシーバーやビデオウォールをグループ化できます。グループ単位で VE89 シリーズ全体を一括制御可能。
- ◆ 複数のプロファイルを作成し、指定期間内で再生順を設定可能。

[簡単な IP 設定]

- ◆ IT に関する知識が少なくても、簡単に IP 設定が可能
- ◆ 本体の押しボタンで入力ソースを簡単に切り替えできます。

[省コストを実現するダイジーチェーン接続対応]^{※2、※3}

- ◆ レシーバーをダイジーチェーン接続することで、1つの映像ソースを複数ディスプレイへの表示が可能。
- ◆ 拡張が容易 - ネットワークスイッチのポート使用数を削減できます。
- ◆ ホテルや空港、大学のキャンパス、駅、ショッピングモールや展示会場といった、ディスプレイを数百メートル離れた場所に設置するような場合に最適



ダイジーチェーン接続を使ってビデオウォールの設定や 100m 以上の AV システムの延長を実現

[ビデオウォール対応]

- ◆ 最大 8×8 構成、最大 64 台のディスプレイを使用したマルチ表示に対応。^{※4}
- ◆ 水平/垂直 (90° および 270°)回転表示対応
- ◆ Web GUI からレイアウトやプロファイルを設定。映像プレビューやウィンドウ調整も直感的に操作可能。

[オーディオエンベデッド/ディエンベデッド対応]

- ◆ トランスミッター - 外部アナログ音声を HDMI 映像に埋め込み可能
- ◆ レシーバー - HDMI 信号から音声を分離して出力可能

[複数の制御方法]

- ◆ 複数の制御方法 - 本体トップパネルのボタン操作やイーサネット経由の遠隔制御に対応。
- ◆ USB 2.0 搭載 - キーボード、マウス、フラッシュメモリ、プリンターなどの USB 周辺機器を接続可能^{※5}
- ◆ 双方向性 IR チャンネル対応 - IR 信号は一度に片方向送信可能

- ◆ RS-232 対応 - 双方向性 RS-232 シリアルポートにタッチパネルやバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスを接続可能

-
- 注意:**
1. 対応 4K 解像度は以下の通りです。
 - 3840×2160@30Hz (4:4:4)
 - 3840×2160@60Hz (4:2:0)
 - 4096×2160@30Hz (4:4:4)
 - 4096×2160@60Hz (4:2:0)
 2. デイジーチェーン接続はネットワーク環境に依存します。レシーバーは 1 ソースにつき最大 10 台までの直列接続を推奨。
 3. デイジーチェーン構成時、VE8952 の PoE 機能は使用できません。
 4. ネットワークに関する問題は、弊社製品ページで公開されている導入ガイドの内容をご確認いただくか、弊社技術サポートまでお問い合わせください。
 5. アイソクロナス転送(マイクロパケット転送型)方式の USB 機器(例:USB オーディオ)は非対応です。すべての USB 機器の動作を保証するものではありません。1 台のトランスミッターで認識可能な USB 機器は最大 4 台です。
-

使用前の下準備

VE890 / VE8950 / VE8952 を使用する前に、以下の手順で準備を行ってください。

1. 使用するネットワーク構成と設定方法を決めます。詳細は、弊社のウェブページから入手できる「VE89 シリーズ導入ガイド」や「VE89 シリーズネットワーク構築ガイド」を参照してください。
2. 本体を壁面またはラックに取り付けます。取り付け方法の詳細については、p.24「VE8900/VE8950/VE8952 のマウント」を参照してください。
3. VE8900/VE8950/VE8952 を、必要に応じてソースデバイス、ディスプレイ、ネットワーク、その他のハードウェア機器に接続します。詳細については、p.25「VE8900/VE8950 の接続」および p.28「VE8952 の接続」の各セクションにおける接続図を参照してください。
4. 次のいずれかの方法で、ソースの割り当てを行ってください。

注意: 1対1の機器構成でセットアップする場合は、この手順を省略してください。1対1の機器構成の場合、ソースは自動的に割り当てられます。

- ◆ 本体ボタンから設定する
詳細については、p.34「デバイスパネルを使ったソースの割り当て方法」を参照してください。
- ◆ VE マネージャーから設定する。
詳細については、p.37「VE マネージャーへのログインと設定」を参照してください。

第2章 ハードウェアセットアップ

ハードウェアのセットアップを行う前に、下記の注意事項をご確認ください。

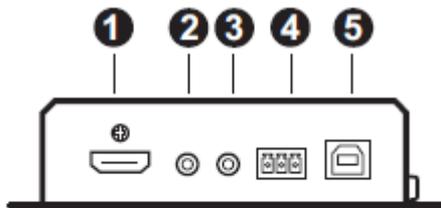


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.7 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 必要な機器すべての接続が完了するまで、VE8900/VE8950/VE8952 の製品本体に電源を入れないでください。

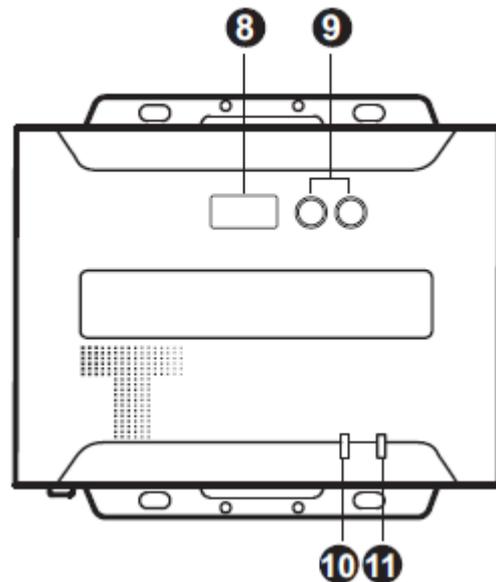
製品各部名称

VE8900T/VE8950T/VE8952T (トランスミッター)

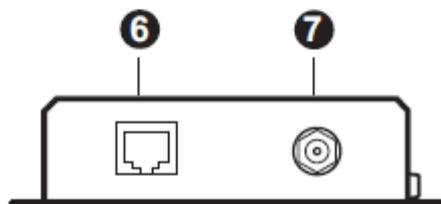
Front View



Top View



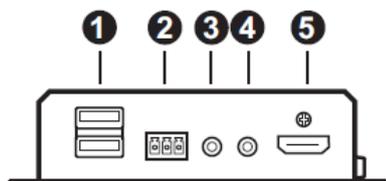
Rear View



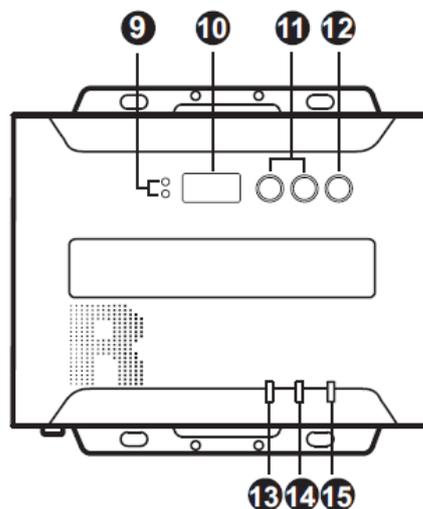
No.	名称	説明
1	HDMI 入力ポート	ソース機器(PC、メディアプレーヤーなど)を接続します。
2	オーディオ 入力ポート	アナログ LINE 入力用です。 注意: マイク入力には対応していません。
3	双方向 IR ポート	IR レシーバー／トランスミッターを接続します。 リモコン操作や IR 信号の延長に使用します。
4	RS-232 シリアルポート	シリアル制御機器を接続します。
5	USB Type-B ポート	ソース側機器 (PC/Mac)と接続します。
6	LAN ポート	ネットワークスイッチへ接続します。 ※VE8952T は PoE 対応です。
7	電源ジャック	付属の電源アダプターを接続します。
8	ID 表示パネル	現在のデバイス ID を表示します。
9	Prev(+)/Next(-) ボタン	デバイス ID を変更します。また、接続するレシーバーとのペア設定に使用します。
10	リンク LED	ネットワークに接続されると点灯します。スイッチ接続時はオレンジで点灯します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。
11	電源 LED	電源が入ると緑色に点灯します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。

VE8900R/VE8950R/VE8952R (レシーバー)

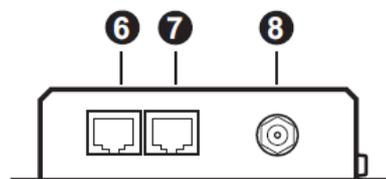
Front View



Top View



Rear View



No.	名称	説明
1	USB Type-A ポート	USB 機器を接続します。
2	RS-232 シリアルポート	シリアル制御機器を接続します。
3	双方向 IR ポート	IR レシーバー／トランスミッターを接続します。 リモコン信号の送受信に使用します。
4	オーディオ 出力ポート	スピーカーや音声入力機器に接続します。
5	HDMI 出力ポート	ディスプレイに接続します。
6	LAN1 ポート	ネットワークスイッチに接続します。 ※VE8952R は PoE 対応です。
7	LAN2 ポート	デージーチェーン接続用ポートです。後続の VE8900R/VE8950R/VE8952R には LAN1 で接続します。
8	電源ジャック	付属の電源アダプターを接続します。
9	Tx/Rx LED	現在の動作モードを表示します。 トランスミッター／レシーバーの状態を示します。

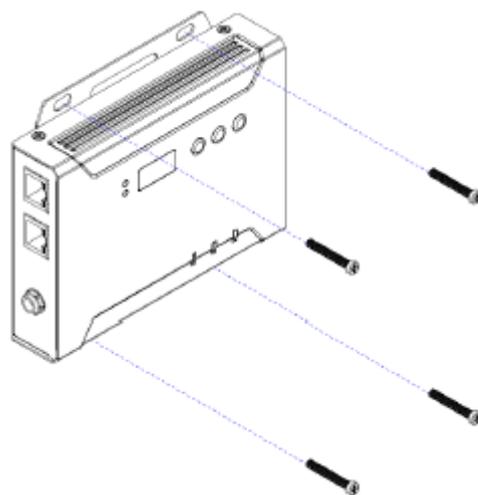
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
10	ID 表示パネル	現在設定されているデバイス ID を表示します。Tx/Rx LED と組み合わせて自身のデバイス ID と接続先を確認することができます。
11	Prev(+)/Next(-) ボタン	◆ デバイス ID を変更します。 ◆ 接続先のトランスミッターの変更も行います。
12	Tx/Rx 切替ボタン	トランスミッターとレシーバーに関しての操作を切り替えます。
13	HDMI 出力 LED	本体から映像信号が出力されていると点灯します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。
14	リンク LED	LAN 接続が確立すると点灯します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。
15	電源 LED	電源が入ると点灯します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。

VE8900/VE8950/VE8952 の取り付け

壁へのマウント

製品本体に一体化しているブラケットをネジで固定するか、この部分を突起物に引っかけるかして、製品本体を壁にマウントしてください。



ラックマウント

VE8900/VE8950/VE8952 をラックにマウントする場合は、ラックマウントキット「VE-RMK1U」をお使いください。このオプション品に関する詳細は、下記のサイトにアクセスして、ご確認ください。

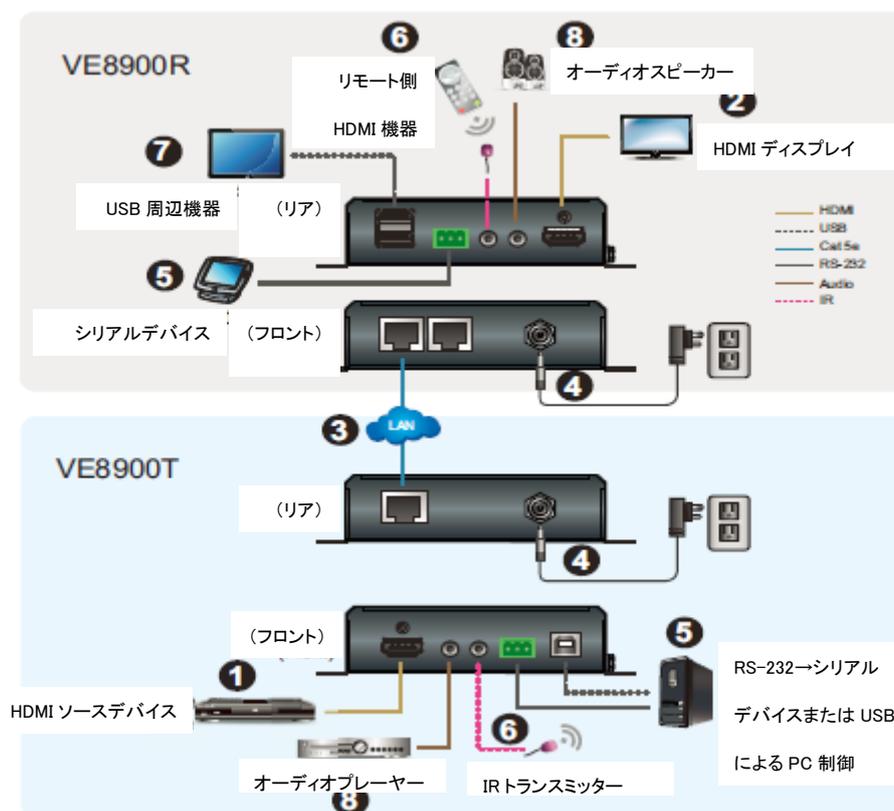
<https://www.aten.com/jp/ja/products/>

注意: ブラケットを壁面やラックに取り付ける際に必要となるネジは、製品パッケージに同梱されていません。マウント用のネジは、お手数ですが、お使いの環境に適したものを別途ご用意ください。

VE8900/VE8950 の接続

以下の手順で機器を接続してください。

- 注意:
- ◆ LED 表示は、接続や信号伝送の状態把握に役立ちます。詳細は、p.31「状態 LED」を参照してください。
 - ◆ 本製品と互換性のある ATEN 製品の一覧は、ウェブブラウザから下記 URL にアクセスして確認してください。
<https://www.aten.com/jp/ja/>



1. トランスミッター (VE8900T / VE8950T) の HDMI 入力ポートにソース機器を接続します。
2. レシーバー (VE8900R / VE8950R) の HDMI 出力ポートにディスプレイを接続します。
3. 機器構成に応じて、同一の LAN に接続します。
 - ◆ 1対1構成の場合：トランスミッターの LAN ポートと、レシーバーの LAN1 ポートを RJ-45 ケーブルで直接接続します。

◆ **映像分配・マトリクス構成の場合**：トランスミッターとレシーバーを、同じネットワークスイッチに接続します。

➤ T側のLANポート

➤ R側のLAN1ポート

をスイッチへ接続してください。

4. 各機器に付属の電源アダプターを接続します。
5. (オプション)レシーバーのRS-232ポートにシリアル機器を接続できます。コンピューター、タッチパネル、バーコードスキャナー、制御システム^{※1}を接続することができます。
6. (オプション)IRトランスミッター/レシーバーのケーブル部分を、トランスミッターとレシーバーの双方向IRポートに、IRトランスミッター/レシーバーを接続します。^{※1}。
7. (オプション)USB接続
 - a) トランスミッター:USB Type-B
 - b) レシーバー:USB Type-A周辺機器やPC制御に使用します。^{※1, 2}。
8. (オプション)レシーバーのオーディオジャックにオーディオデバイスを接続します^{※3}。

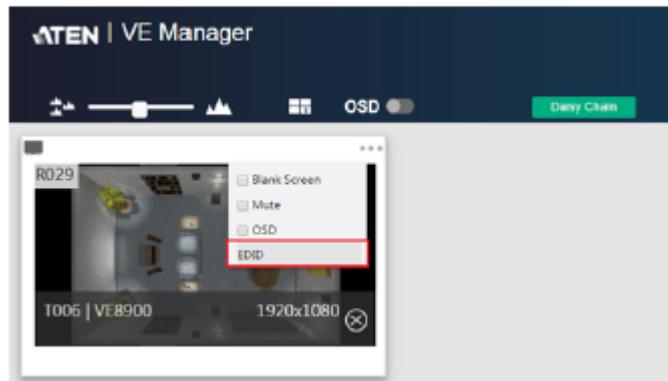
注意: 1. IR、RS-232、USBの各信号伝送は、デフォルトで無効に設定されています。有効にするには、VEマネージャーで「**System Settings**」(システム設定) > 「**Receiver**」(レシーバー) > 「**IR/RS232**」または「**USB**」の項目で、該当機能を有効にしてください。

2. 1台のトランスミッターは、最大4台のUSBタッチパネルから制御できます。

(次のページに続きます)

注意: 3. トランスミッターで HDMI オーディオを使用する場合は、VE マネージャーで設定 (続き)

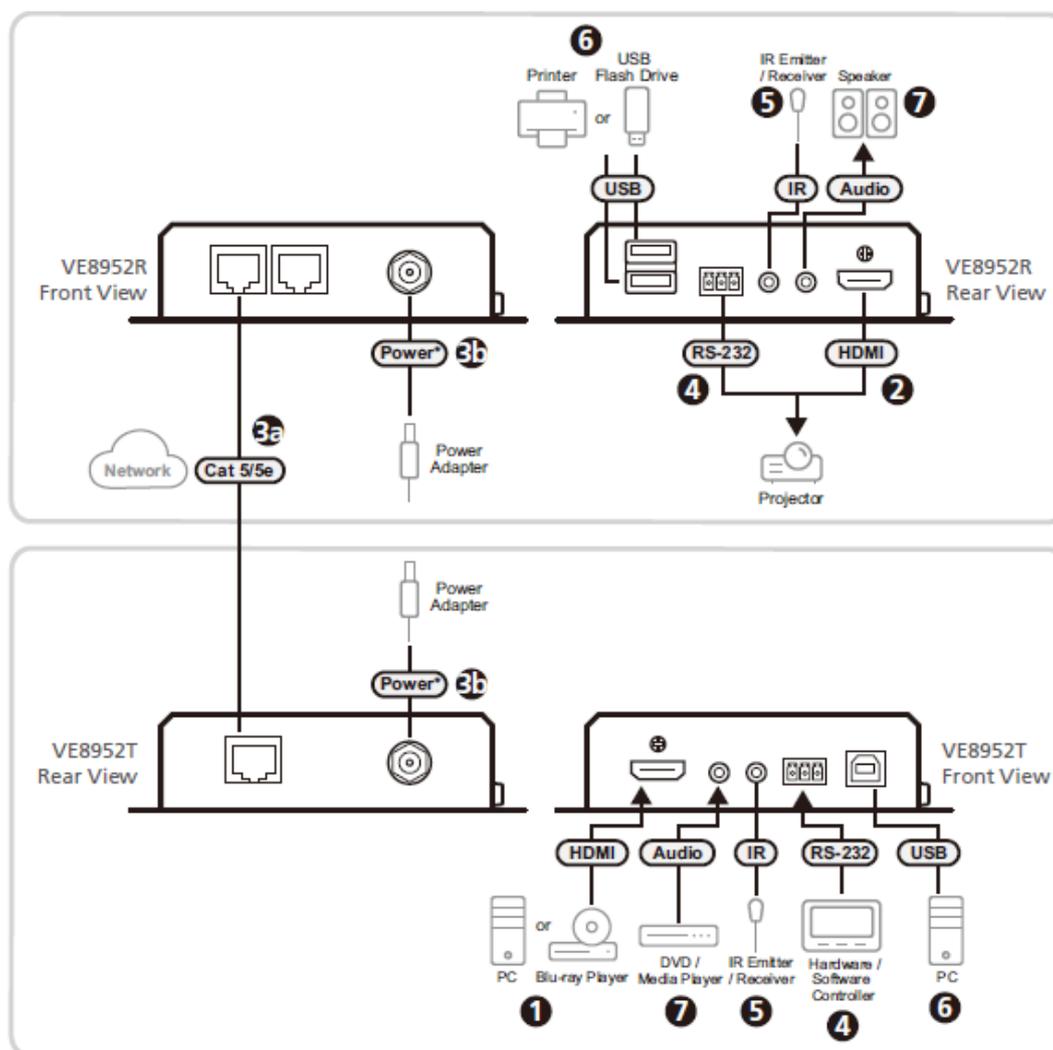
- VE マネージャーで、「System Settings」(システム設定) > 「Transmitter」(トランスミッター) > 「Audio In」(オーディオ入力)の項目で、値を「HDMI」に変更します。
- レシーバーVE8900R/VE8950R で 5.1ch または 7.1ch サラウンドサウンドオーディオを有効にするには、次の設定を行います。
 - a) VE マネージャーで、「System Settings」(システム設定) > 「Transmitter」(トランスミッター)の項目で、EDID を「Manual」(手動)に変更します。
 - b) VE マネージャーのプレビュー部分で「…」アイコンをクリックし、レシーバーの EDID をトランスミッターへ送信します。EDID を更新すると PC から再度読み直しによる一時的な黒画面が表示しますが、正しい挙動となります。



VE8952 の接続

以下の手順に従って、VE8952T(トランスミッター)とVE8952R(レシーバー)を接続してください。

- 注意:
- ◆ LED 表示で接続状態や信号伝送の状況を確認できます。詳細は、p.31「状態 LED」を参照してください。
 - ◆ 本製品と互換性のある ATEN 製品一覧は、下記 URL よりご確認ください。
<https://www.aten.com/jp/ja/>



Note: The power adapter is sold separately. Please contact your ATEN dealer for product information.

1. VE8952T の HDMI 入力ポートと映像ソースの HDMI 出力ポートを接続します。
2. VE8952R の HDMI 出力ポートとディスプレイの HDMI 入力ポートを接続します。
3. 次の手順に従って VE8952 のユニットをセットアップしてください。図は 1 対 1 でセットアップした機器構成を表しています。

1 対 1 の機器構成でセットアップする場合

- a) VE8952T の LAN ポートと VE8952R の LAN1 ポートを LAN ケーブルで接続します。
- b) それぞれに電源アダプターを接続します。

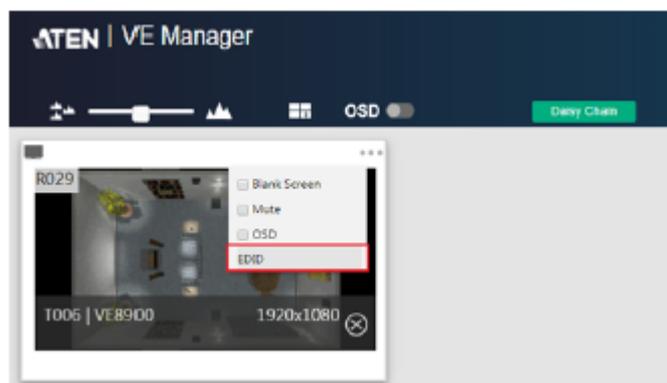
多対多の機器構成でセットアップする場合

- a) VE8952T と VE8952R を同じネットワークスイッチに接続します。
- b) PoE 対応スイッチを使用する場合: LAN ケーブル経由で給電可能
- c) PoE を使用しない場合: 各ユニットに電源アダプターを接続してください

注意: 電源アダプターと PoE の両方が接続されている場合、電源アダプターが優先され、PoE は冗長電源として動作します。

4. (オプション) 制御 PC や制御システムを VE8952 の RS-232 ポートへ接続します。
5. (オプション) IR レシーバー／エミッターを VE8952T および VE8952R の双方向 IR ポートへ接続します。操作する場所に応じて、接続側を決定してください。
6. (オプション) キーボード・マウス → VE8952R の USB Type-A、
PC → VE8952T の USB Type-B にそれぞれ接続します。
7. (オプション) オーディオデバイスを、VE8952T のオーディオ入力ポートと VE8952R のオーディオ出力ポートに接続します。

-
- 注意:**
1. IR、RS-232、USB の各信号伝送は、初期設定では無効です。これらの機能を有効にするには、VE マネジャーで「**System Settings**」(システム設定) > 「**Receiver**」(レシーバー) > 「**IR/RS232**」または「**USB**」の項目で、該当機能を有効にしてください。
 2. 1 台のトランスミッターは、最大 4 台の USB タッチパネルから制御できます。
 4. トランスミッターで HDMI オーディオを使用する場合は、VE マネージャーで設定が必要です。初期設定では無効です。
 - VE マネジャーで、「**System Settings**」(システム設定) > 「**Transmitter**」(トランスミッター) > 「**Audio In**」(オーディオ入力)の項目で、値を「**HDMI**」に変更します。
 - レシーバーVE8900R/VE8950R で 5.1ch または 7.1ch サラウンドサウンドオーディオを有効にするには、次の設定を行います。
 - c) VE マネジャーで、「**System Settings**」(システム設定) > 「**Transmitter**」(トランスミッター)の項目で、EDID を「**Manual**」(手動)に変更します。
 - a) VE マネジャーのプレビュー部分で「…」アイコンをクリックし、レシーバーの EDID をトランスミッターへ送信します。EDID を更新すると PC から再度読み直しによる一時的な黒画面が表示しますが、正しい挙動となります。
-



第3章 パネル操作

概要

本章では、VE8900 / VE8950 / VE8952 シリーズの

- フロントパネル LED の意味
- パネルボタンの操作方法

について説明します。

状態 LED

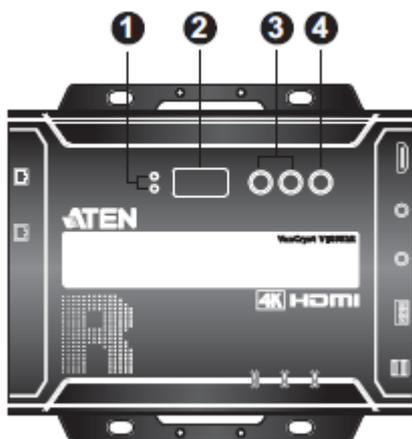
本製品(トランスミッター/レシーバー)には、動作状況を確認できる LED ランプが搭載されています。LED の色や点灯状態により、電源状態や通信状況を確認できます。

LED	表示	説明
電源	グリーンで点灯	電源 ON
	オフ	電源 OFF
リンク	オレンジで点灯	LAN に接続中
	オフ	LAN 未接続
HDMI 出力	オレンジで点灯	ビデオ出力が安定
	オレンジで点滅	ビデオ出力が不安定
	オフ	ビデオ出力なし
RJ-45 コネクター (左側の LED)	オレンジで点灯	100 Mbps 通信
	グリーンで点灯	1 Gbps 通信
RJ-45 コネクター (右側の LED)	グリーンで点灯	LAN 接続済み(通信なし)
	グリーンで点滅	データ通信中

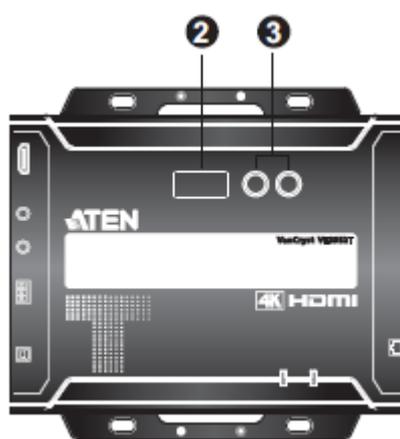
注意: HDMI 出力 LED は、レシーバーモデルのみの機能となります。

パネル各部名称

VE8900/VE8950



VE8900/VE8950 レシーバー



VE8900/VE8950 トランスミッター

注意: 図は VE8900 / VE8950 の例ですが、VE8952 も同様の構成です。

No.	名称	説明
1	Tx/Rx LED	表示されている ID 番号が「トランスミッター (Tx)」か「レシーバー (Rx)」かを示します。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
2	ID 番号	<p>◆ トランスミッターの場合:設定されているトランスミッターの ID 番号が表示されます。</p> <p>◆ レシーバーの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 通常は、レシーバー自身の ID 番号が表示されます。パネル操作が「Tx モード」に切り替わっている場合は、対応するトランスミッターの ID 番号が表示されます。 ➤ ID が 1000 以上になる場合、最初の 2 桁をアルファベットで表示します。 A = 10 A00～A99 は 1000～1099 の ID 番号を表します。 b = 11 b00～b99 は 1100～1199 の ID 番号を表します。 c = 12 c00～c99 は 1200～1299 の ID 番号を表します。 d = 13 d00～d99 は 1300～1399 の ID 番号を表します。 E = 14 E00～E99 は 1400～1499 の ID 番号を表します。 F = 15 F00～F99 は 1500～1599 の ID 番号を表します。 <p>◆ ID 番号が点滅しているときは、他のそのユニットが現在使用中であることを示します。</p>
3	Up(+)/Down(-) ボタン	このボタンで ID 番号を変更できます。
4	Tx/Rx 切替ボタン	レシーバーの表示モードを切り替えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ● Rx モード:レシーバー自身の ID を表示 ● Tx モード:接続先トランスミッターの ID を表示

- 注意:**
- ◆ VE8900/VE8950/VE8952 は 1 分間操作がない場合、自動的にパネルがロックされます。ロックを解除するには、「Down(-)」ボタンを 3 秒間長押ししてください。ロック機能の詳細設定については、p.63「全般設定」をご確認ください。
 - ◆ Tx/Rx LED および Tx/Rx 切替ボタンは、レシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R でのみ利用可能です。

デバイスパネルを使ったソースの割り当て方法

本手順では、本体のボタンを使用して

1. 各機器に ID を設定する
2. レシーバーに表示させる映像 (トランスミッター) を選択する方法を説明します。

1. レシーバーに ID を設定する

- a) VE8900R/VE8950R/VE8952R の Tx/Rx 切替が「Rx」になっていることを確認してください。
- b) Rx LED が点灯していれば正常です。点灯していない場合は、Tx/Rx ボタンで Rx に切り替えてください。
- c) 「Prev」または「Next」ボタンで ID 番号を設定します。
- d) 複数のレシーバーを使用する場合は、各機器に対して同様に設定してください。

2. トランスミッターに ID を設定する

- a) VE8900T/VE8950T/VE8952T に ID 番号を設定してください。
- a) VE8900T/VE8950T/VE8952T で、**Prev**(+)ボタンや**Next**(-)ボタンを使って、ID 番号を割り当てます。
- b) 複数のトランスミッターを使用する場合は、各機器に対して同様に設定してください。

3. レシーバーにソースを割り当てる

- a) レシーバーを「Tx」モードに切り替えてください。Tx LED が点灯します。
- b) 「Prev」または「Next」ボタンで、表示したいトランスミッターの ID を選択します。
- c) 複数のレシーバーがある場合は、各機器に対して同様に設定してください。

第4章 管理

概要

VE8900/VE8950/VE8952 は、内蔵ユーティリティ「VE マネージャー」を搭載しています。Webブラウザからアクセスし、機器を一元管理できます。本機能により、ブラウザから複数のトランスミッター/レシーバーをまとめて管理可能です。主な操作内容は以下の通りです。

特長	詳細
トランスミッター/レシーバーの設定	p.65「トランスミッターの設定」 p.67「レシーバーの設定」を参照してください。
状態監視	p.62「VE8900/VE8950/VE8952 の状態確認」
表示テンプレート作成	p.48「ビデオウォールのレイアウト作成」

ログイン IP アドレスの検索

IP アドレスは「IP Installer Utility」を使用して確認できます。

1. ATEN 公式サイト(<https://www.aten.com/jp/ja/>)にアクセスします。
2. 対象製品のページを開きます。
3. 「サポート情報」から IP Installer Utility をダウンロードします。
※ 型番で検索してダウンロードすることも可能です。
4. ダウンロードしたファイルを解凍し、プログラムを起動します。
「Network Device IP Installer」画面が表示されます。
5. 「Enumerate (一覧表示)」をクリックします。
ネットワーク上の ATEN 機器が一覧表示されます。
6. 表示された IP アドレスを確認します。
7. 該当機器の IP アドレスを使用して VE マネージャーへログインしてください。

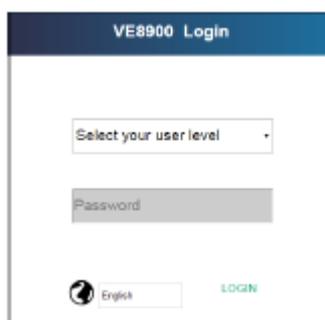
OSD からログイン IP アドレスを確認するには

IP アドレスを確認するには、上記の方法以外に、レシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R に接続された HDMI モニターを使用する方法もあります。詳細は、p.25「VE8900/VE8950 の接続」および p.28「VE8952 の接続」の各セクションにおける接続図を参照してください。

VE マネージャーへのログインと設定

Web ブラウザを使用して VE マネージャーにログインします。

1. Web ブラウザを開きます。
2. IP Installer Utility で確認した IP アドレスを入力します。
3. ログイン画面が表示されます。



4. 「User Level」で「Administrator」を選択します。
5. パスワード欄に「password」と入力し、ログインしてください。

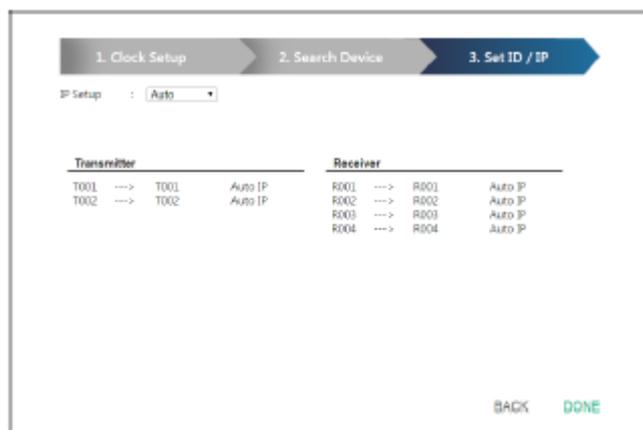
注意: 初めてログインすると、初期設定画面が表示されます。
セキュリティ確保のため、ログイン後は必ず新しいパスワードへ変更してください。
変更後のパスワードは、安全な方法で管理してください。



6. 画面の指示に従い、日時などの基本設定をします。
 - ◆ 現在の時刻をそのまま使用する場合は、「Keep current time」(現在時刻を維持する)を選択してください。
 - ◆ 使用中のパソコンと時刻を同期する場合は、「Sync with computer time」(コンピューターの時刻と同期する)を選択してください。
 - ◆ 手動で設定する場合は、日付と時刻を入力してください。
日付は「YYYY/MM/DD」のフォーマットで入力してください。
7. 「NEXT」をクリックします。
8. ネットワーク上のデバイスが自動検索されます。
9. 検出されたトランスミッターとレシーバーが一覧表示されます。



10. 一覧から設定するデバイスを選択します。
11. 「Next」をクリックし、IP アドレス設定画面が表示されます。
12. 画面の指示に従って IP を設定してください。
13. 設定完了後、「DONE」をクリックします。

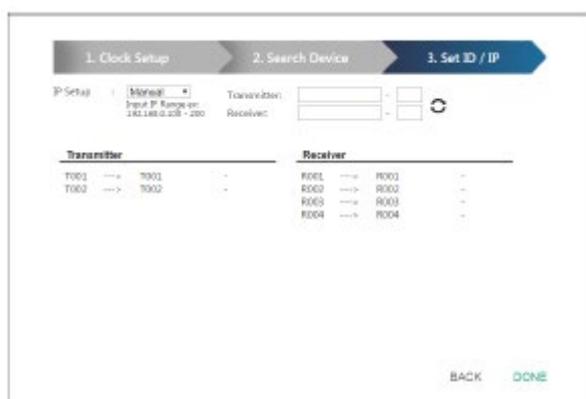


14. 「IP Setup」(IP 設定)のドロップダウンメニューから、IP 割り当て方法を選択します。

- ◆ **Auto(自動)**: IP アドレスを自動割り当てします。(169.254.x.x/255.255.0.0)
- ◆ **DHCP**: DHCP サーバーから自動的に IP アドレスを取得します。
- ◆ **Manual(手動)**: 管理対象のデバイスに IP アドレスを手動で設定します。

15. IP アドレスを手動で設定する

a) 「Set ID/IP」画面で「Manual」を選択すると、以下の IP 設定画面が表示されます。

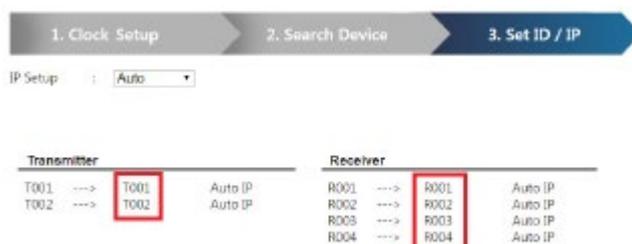


b) 「Transmitter」と「Receiver」欄に、それぞれ有効な IP アドレスを入力します。

c) 「Refresh」をクリックすると、IP 割り当てが開始されます。

d) 設定が完了すると、VE マネージャー画面に反映されます。

16. デバイス ID を変更する場合は、対象機器をクリックします。新しい ID 番号を入力してください。



17. 「Done」(完了)をクリックしてください。そうすると、VE マネージャーのメイン画面が表示されます。

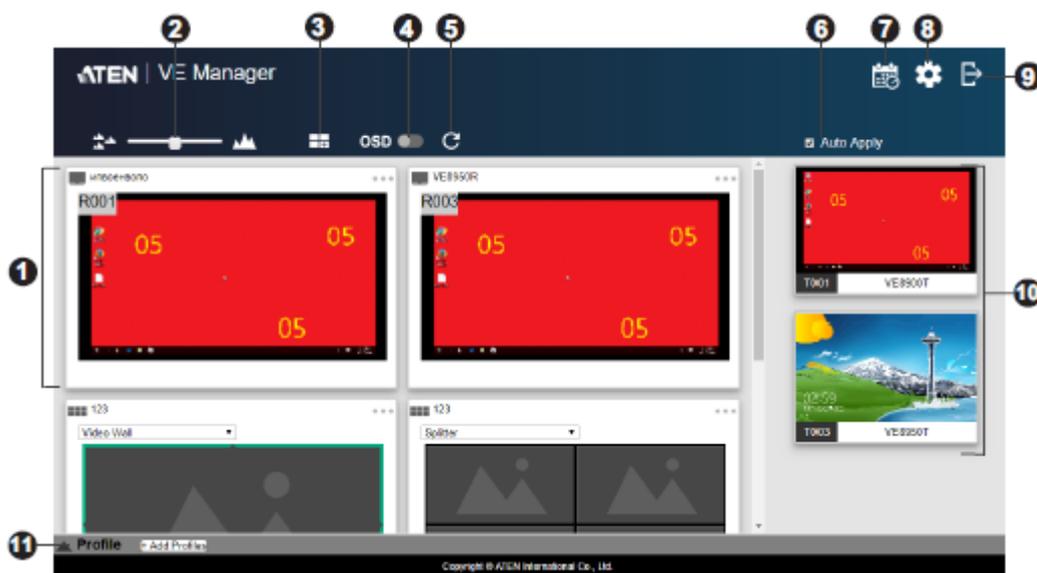
注意: ◆ セキュリティ上の理由から、初回ログイン時に使用したパスワードを変更することを推奨します。アカウントの設定に関する詳細は、p.76「アカウントの設定」を参照してください。

この画面(デバイスの新規追加画面)に再びアクセスするには、VE マネージャー

のメイン画面で「」をクリックしてから、「」をクリックしてください。

メイン画面

VE マネジャーのメイン画面からは、下記のコントロールにアクセスすることができます。



No.	名称	説明
1	ビデオウォール / レシーバープレビュー	<ul style="list-style-type: none"> ● 作成済みのビデオウォールを表示します。 ● 各レシーバーの映像状態を確認できます。 ● デイジーチェーン構成の表示状況も確認可能です。 p.48「ビデオウォールのレイアウト作成」 p.52「プレビューの編集」を併せて参照してください。
2	プレビューサイズ	スライダーを操作して、プレビュー画面のサイズを変更できます。
3	ビデオウォールの作成/ 編集	<ul style="list-style-type: none"> ● ビデオウォールテンプレートの作成が可能です。 ● 既存レイアウトの編集も行えます。 詳細は p.44「VE マネジャーを使ったソースの割り当て方法」を参照してください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
4	OSD	<ul style="list-style-type: none"> ● ビデオウォールで使用する各デバイスのパネル操作を有効／無効に設定します。 ● 個別に設定する場合は、プレビュー画面の OSD 設定を使用してください。 <p>詳細については、p.52「プレビューの編集」における「Configuration Menu」(設定メニュー)を参照してください。</p>
5	再読み込み	<ul style="list-style-type: none"> ● デイジーチェーン接続の状態を再検出します。 ● 表示情報を最新の状態に更新します。
6	Auto Apply (自動適用)	<ul style="list-style-type: none"> ● 設定変更を自動で各デバイスに反映します。 ● 有効にすると、保存操作なしで即時適用されます。
7	プロファイル スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● プロファイルのスケジュール設定画面を開きます。 <p>詳細は p.59「プロファイルのスケジュール設定」を参照してください。</p>
8	システム設定	<ul style="list-style-type: none"> ● システム全体の設定画面を開きます。 ● ネットワーク設定、ファームウェア更新、バックアップ、アカウント管理が可能です。 <p>詳細については、第5章「システム設定」を参照してください。</p>
9	ログアウト	クリックすると、VE マネージャーからログアウトします。
10	ソースリスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用可能な映像ソースを一覧表示します。 ● トランスミッターごとに割り当て状況を確認できます。
11	プロファイルバー	ビデオウォール表示用のプロファイルを切り替えます。詳細は p.54「プロファイル」を参照してください。

適用/自動適用

- 「Auto Apply」を有効にすると、設定変更が即時に反映されます。
- 変更のたびに手動で保存する必要はありません。



- 「Auto Apply」のチェックを外すと、手動適用モードになります。
- 設定変更後に「Apply」ボタンをクリックしてください。
- 画面内で変更がある場合、「Apply」ボタンが点灯します。
- 「Apply」を押すと、設定がデバイスに反映されます。

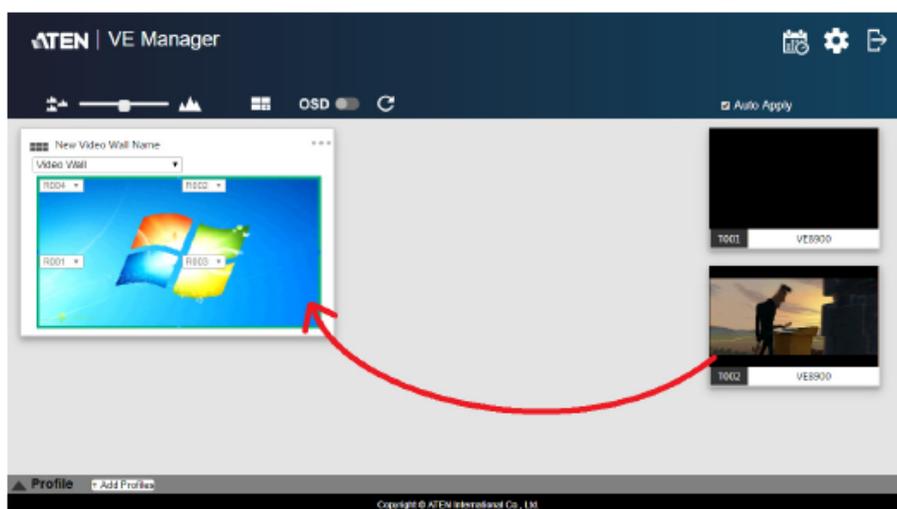


VE マネージャーを使ったソースの割り当て方法

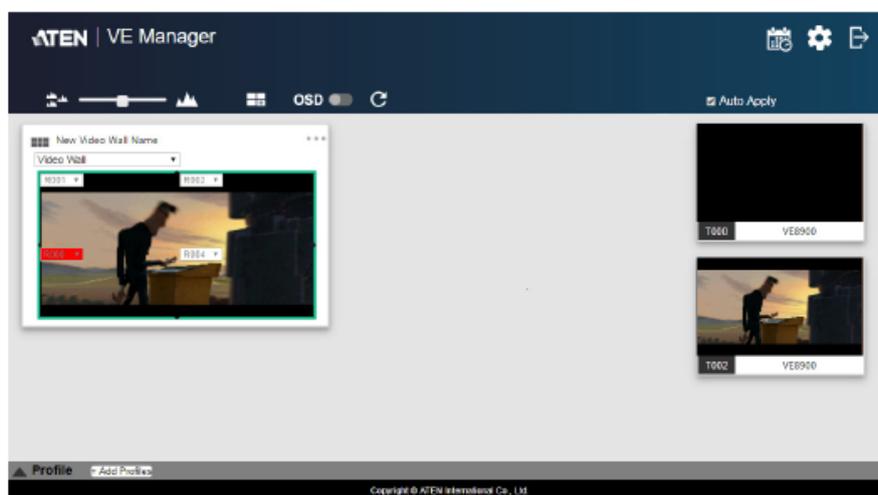
VE マネージャーから映像ソースをレシーバーへ割り当てる手順を説明します。

1. メイン画面で、表示先となるビデオウォールまたはレシーバーを確認します。
2. ソースリストから割り当てたい映像ソースを選択します。
3. 選択したソースをマウスでドラッグします。
4. 割り当てたいビデオウォールまたはレシーバーのプレビュー上にドロップします。
5. ソースが即時に切り替わります。

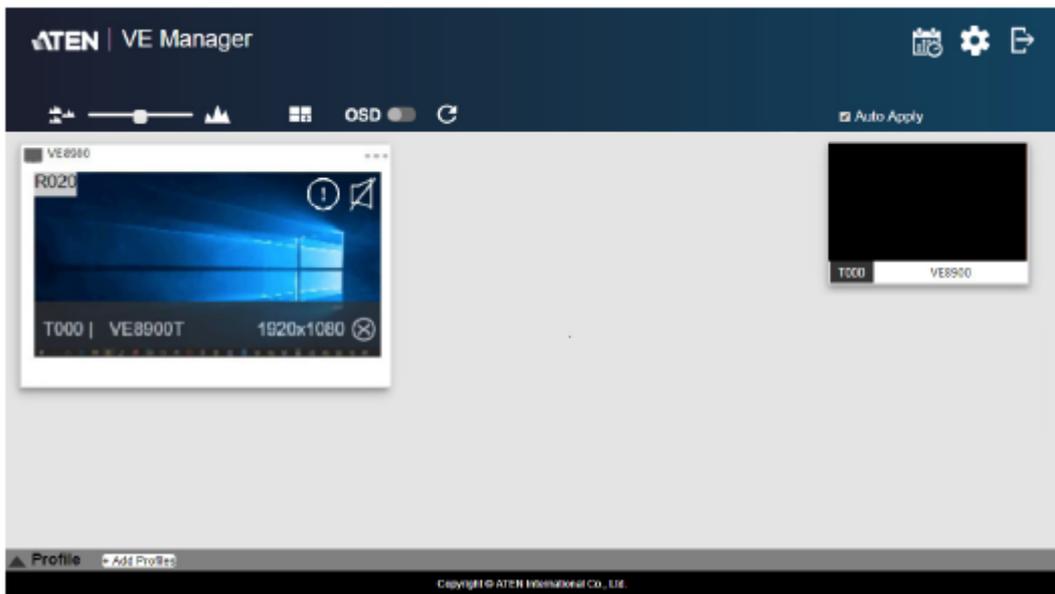
※ Auto Apply が無効の場合は、「Apply」をクリックしてください。



6. 接続や設定に問題がある場合、該当レシーバーが赤色で表示されます。赤表示の場合は、ネットワーク接続や電源状態を確認してください。



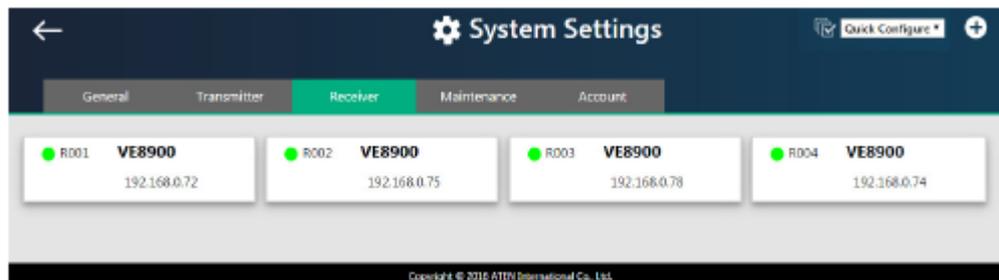
7. 下図のような警告が表示された場合は、以下を確認してください。
- ネットワーク接続状態
 - 電源供給の有無
 - IP 設定および ID 設定



システム設定からソースを割り当てる方法

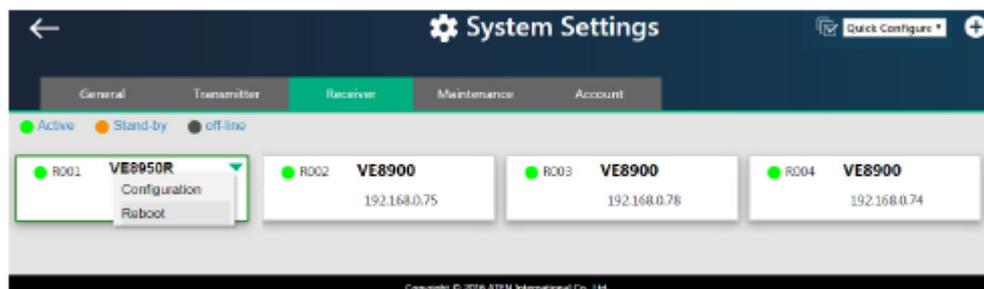
メイン画面以外に、システム設定からもソース割り当てが可能です。

- メイン画面で「」をクリックします。
- 「Receiver」タブを選択します。
- 管理中の VE8900R/VE8950R/VE8952R が表示されます。

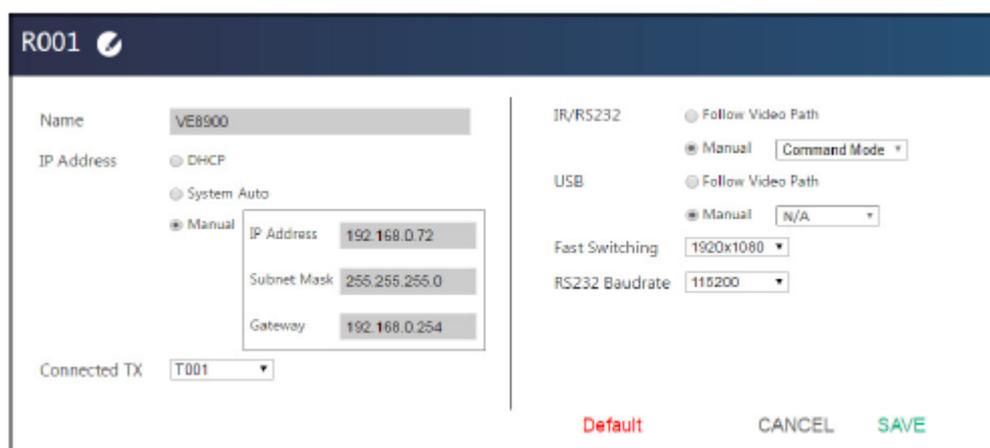


- 対象の VE8900R/VE8950R/VE8952R にカーソルを合わせます。
- 右上に表示されるメニューアイコンをクリックします。
- 表示されたメニューから「Configuration」を選択します。

d) 設定画面が表示されます。



e) 「Connected Tx」欄のプルダウンをクリックします。



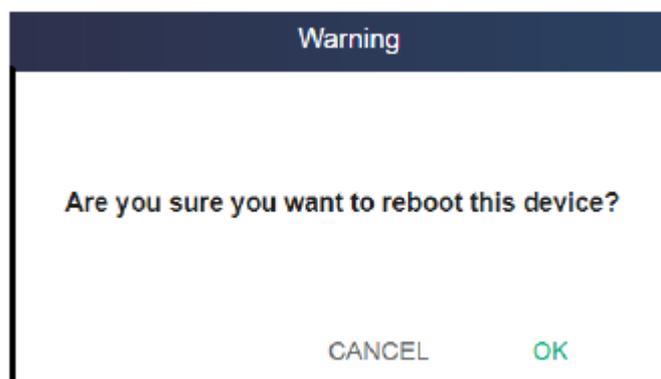
f) 接続するトランスミッターを選択します。

g) 「SAVE」をクリックして設定を保存します。

h) 他のレシーバーにも割り当ててる場合は、同様の操作を繰り返してください。

再起動が必要な場合

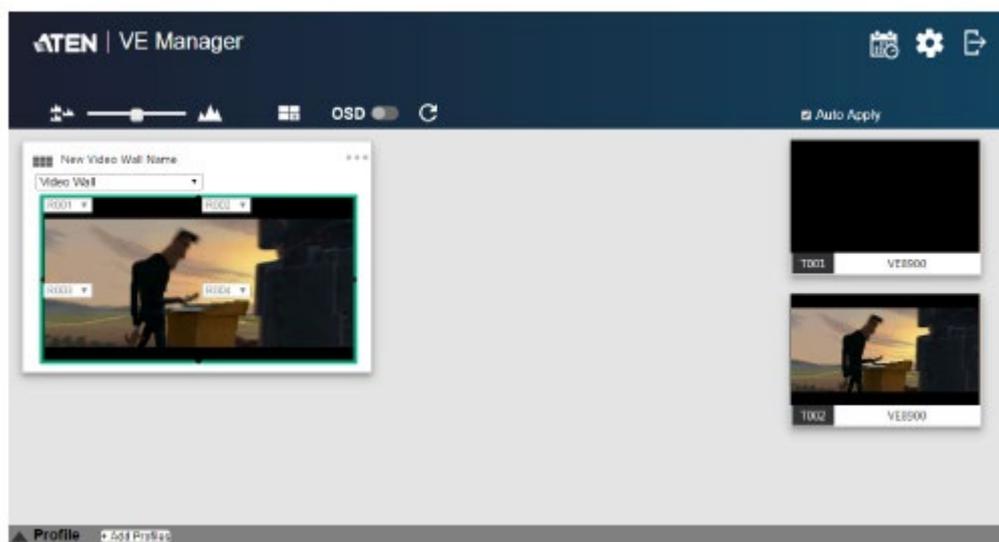
- 設定変更後に再起動が必要な場合があります。
- メニューから「Reboot」を選択してください。
- 確認画面が表示されたら、実行を確定します。



ビデオウォールの設定

ビデオウォールを設定する手順を説明します。

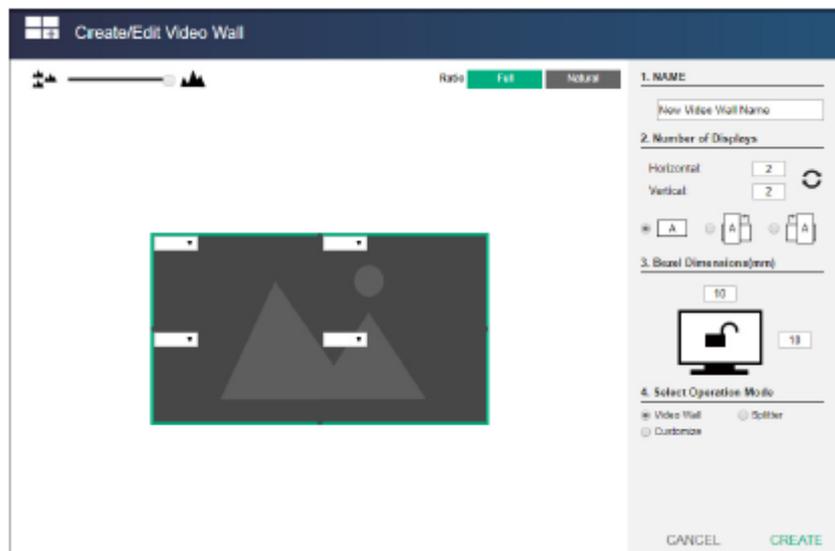
1. 使用するビデオウォールテンプレートが作成済みであることを確認してください。テンプレート作成方法は、p.48「ビデオウォールレイアウトの作成」を参照してください。
2. メイン画面のソースリストから表示したい映像を選択します。
作成済みのビデオウォールレイアウトへドラッグします。
レイアウト上にドロップすると、ソースが割り当てられます。
下図では、T002の表示ソースがR001～R004の4台をモニターを使って、分割表示する構成を表示しています。



注意: ビデオウォール設定の詳細は、p.52「プレビューの編集」を参照してください。

ビデオウォールのレイアウト作成

1. 新規レイアウトを作成するには、メイン画面で「Create/Edit Video Wall」(ビデオウォールの作成/編集)をクリックします。レイアウト編集画面の中央にプレビュー画面が表示されます。



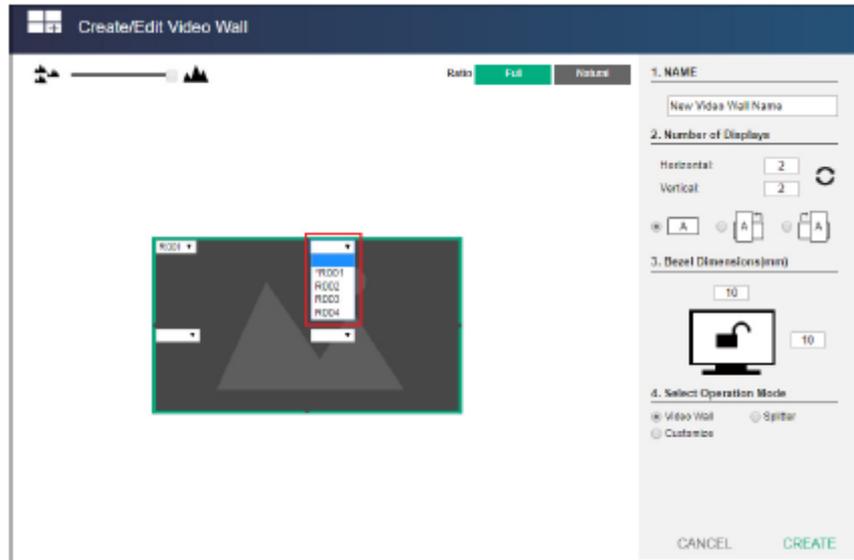
2. 必要な項目を設定してください。設定内容はプレビューに反映されます。

項目	説明
Name (名前)	ビデオウォールの名称を入力します。
Number of Displays (ディスプレイ数)	次のパラメーターを定義してください。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Horizontal(横)」と「Vertical(縦)」で台数を設定します。設定後に「Refresh」をクリックすると、プレビューが更新されます。 ◆ 横表示または縦表示を選択します。90°、180°、270° 回転表示に対応します。
Bezel Dimensions (モニターの額幅)	<ul style="list-style-type: none"> ● モニター枠のサイズを入力します。 ● 上下の値は上下枠の合計値です。 ● 左右の値は左右枠の合計値です。

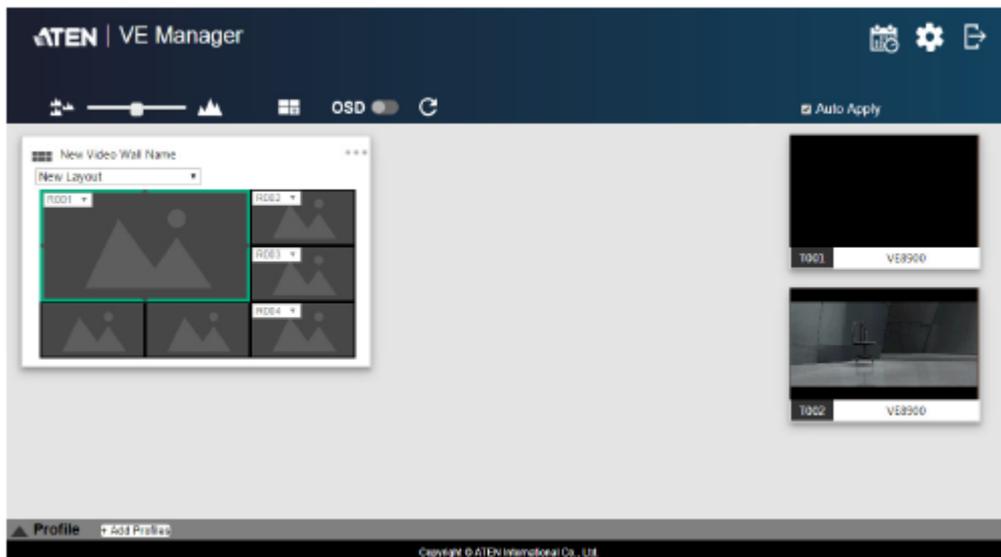
(表は次のページに続きます)

項目	説明
Operation Mode (操作モード)	ビデオウォールの表示方式を選択します。 ◆ Video Wall (ビデオウォール) : 複数のモニターを組み合わせ、1つの大画面として表示します。 ◆ Splitter (スプリッター) : 複数のモニターに同じ映像を表示します。 ◆ Customized (カスタマイズ) : 独自レイアウトを作成します。テンプレート名を変更する場合は、「New layout」をクリックします。
	スライダーバーの四隅を左右に動かすと、プレビュー表示サイズを変更できます。
	複数モニターを選択し、1つの表示領域に結合します。
	このボタンを使うと、モニターの統合を解除します。
Ratio <input checked="" type="radio"/> Full <input type="radio"/> Natural	表示アスペクト比を選択します。 Full (フル) : 画面いっぱいに拡大表示します。 Natural (ナチュラル) : 元のアスペクト比を維持して表示します。

3. プレビュープレビュー内の各画面をクリックします。
 4. 表示されるドロップダウンメニューから出力先レシーバーを選択します。
 5. 選択済み、または使用不可のレシーバーには「*」が表示されます。
- ※ 同一レシーバーを重複して割り当てることはできません。



6. 「CREATE」をクリックします。
7. 新しいビデオウォールテンプレートが作成されます。
8. 作成したレイアウトはメイン画面に表示されます。



ビデオウォールのレイアウト編集

既存のビデオウォールレイアウトを編集する手順を説明します。

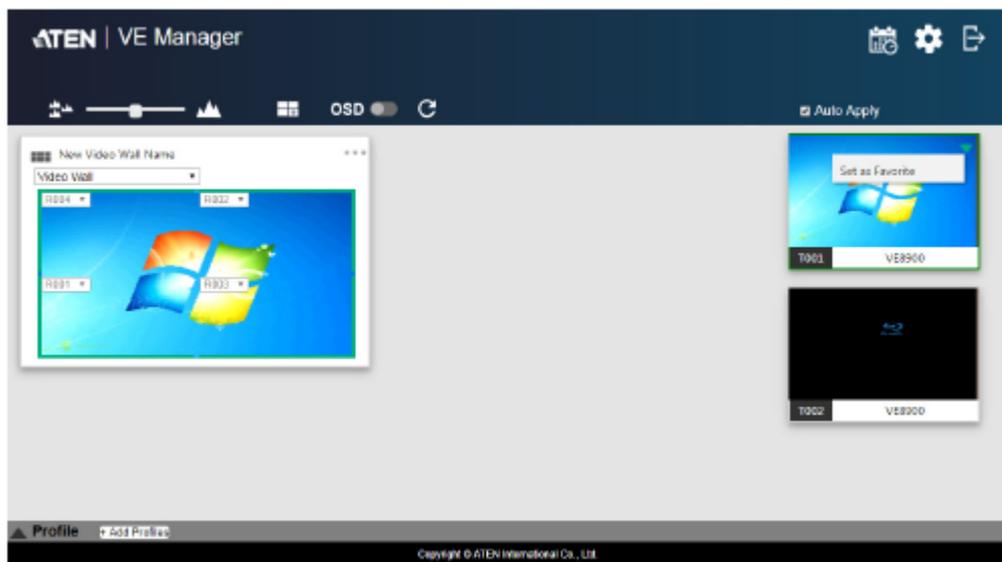
手順 1: 編集画面を開く

1. VE マネージャーのメイン画面を開きます。
2. 編集したいレイアウトの右上にカーソルを合わせます。
3. 表示されたメニューから「Edit」を選択します。

手順 2: レイアウトを変更する

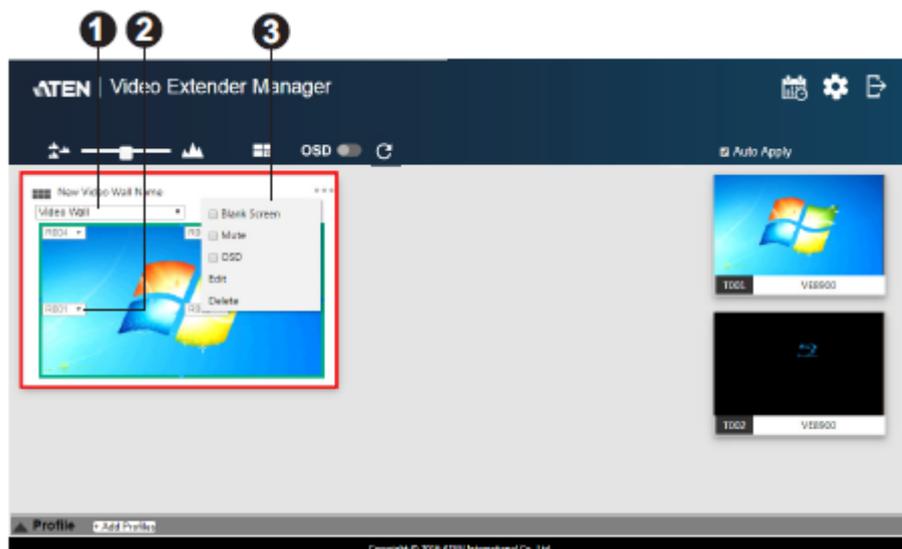
- ディスプレイ数や配置を変更できます。
- ベゼル幅や表示モードの再設定も可能です。
- 変更内容はプレビューに反映されます。

ビデオウォールの設定詳細は、p.48「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。



プレビューの編集

ビデオウォールのプレビュー画面では、表示設定を変更できます。主な設定項目は以下の通りです。



No.	項目	説明
1	Operation Mode (操作モード)	ドロップダウンメニューから表示モードを選択します。 Video Wall/Splitter/Customized を切り替え可能です。
2	Assigned Receiver (割り当てられたレシーバー)	各モニターに割り当てられているレシーバーを確認できます。 統合されていないモニターをクリックすると、割り当て設定画面が開きます。
3	Configuration Menu (設定メニュー)	プレビュー右上のメニューから以下の操作が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ Blank (ブランク): ビデオウォールの映像表示を停止します。 ◆ Mute (ミュート): ビデオウォールの音声出力を無効にします。 ◆ OSD: 対象ビデオウォールに含まれる全レシーバーのパネル操作を有効/無効にします。

(表は次のページに続きます)

No.	項目	説明
3	Configuration Menu (設定メニュー) (続き)	<p>◆ Edit (編集) : クリックすると、ビデオウォールのレイアウト設定画面を開きます。ビデオウォールの設定詳細は、p.48「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。</p> <p>◆ Delete (削除) : クリックすると、選択したレイアウトを VE マネージャーから削除します。レイアウトがオフライン状態の場合のみ実行できます。</p>

プロフィール

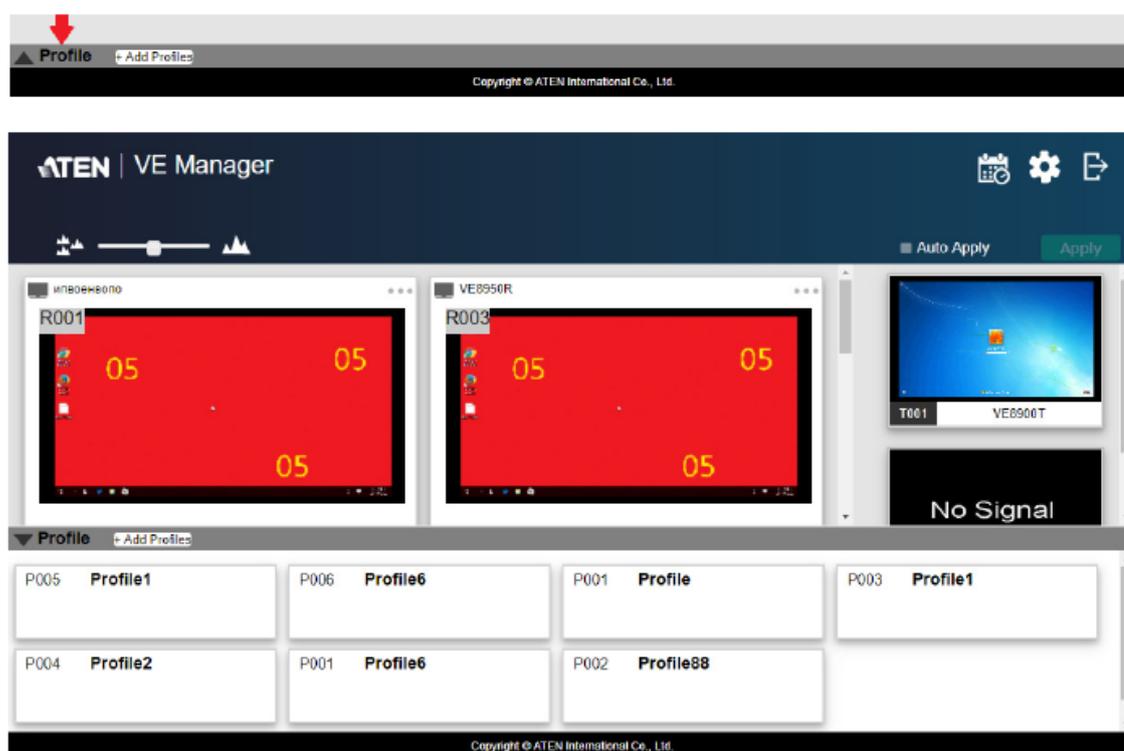
現在のレシーバーやビデオウォールの設定を、プロフィールとして保存できます。

- 複数のプロフィールを作成可能です。
- 必要に応じて手動で切り替えできます。
- スケジュール機能を使えば、日単位・週単位・月単位で自動切り替えが可能です。

プロフィールの作成

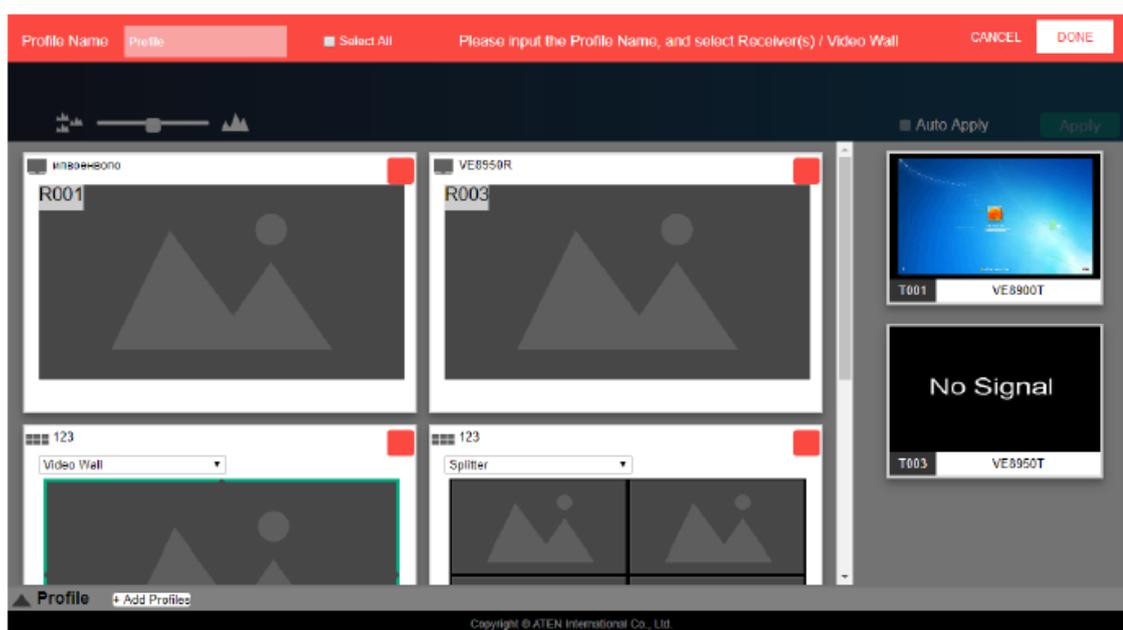
手順 1:プロフィール一覧を表示

1. メイン画面の「Profile」バーにある矢印をクリックします。
2. 画面下部にプロフィール一覧が表示されます。



手順 2: 新規プロフィールを作成

1. 「Add Profile」をクリックします。
2. 次の操作をしてプロフィール情報を設定します。
 - **Profile Name (プロフィール名)**
任意の名称を入力してください。
 - **Receivers / Video Walls (対象機器)**
追加するレシーバーまたはビデオウォールを選択します。
オレンジ色のボックスをクリックすると選択できます。
 - **Select All**
すべてのレシーバー／ビデオウォールを一括選択します。



3. 設定を保存します。
「DONE」をクリックすると、設定内容が保存されます。

プロフィールの編集/削除/切断

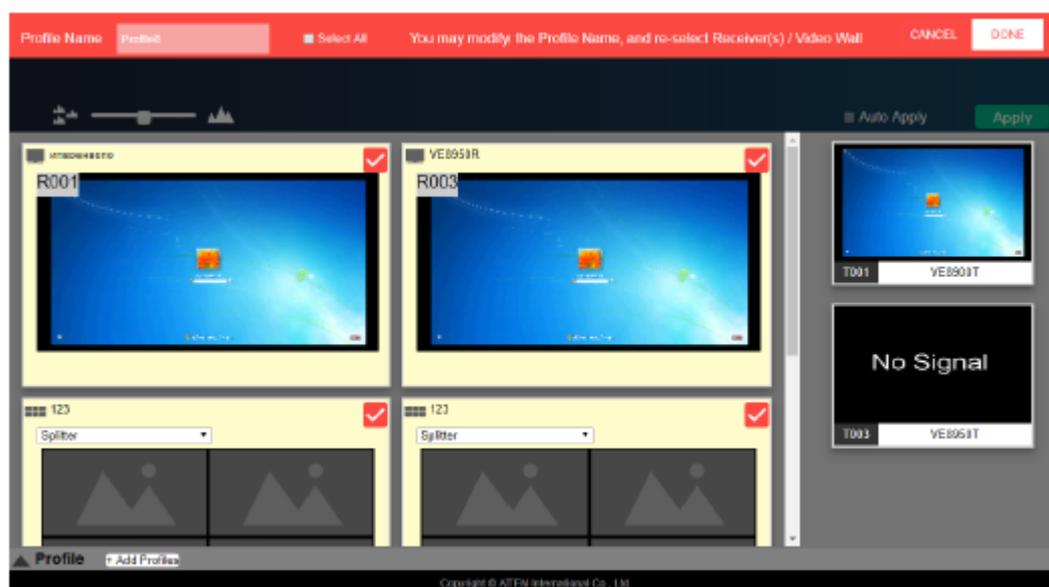
プロフィール一覧から、編集・削除・切断の操作ができます。

対象のプロフィールをクリックしてください。

画面に緑色の矢印が表示されます。その矢印をクリックすると、操作メニューが表示されます。表示されたメニューから、実行したい操作を選択してください。

編集

編集する場合は、メニューから[Edit (編集)]を選択します。



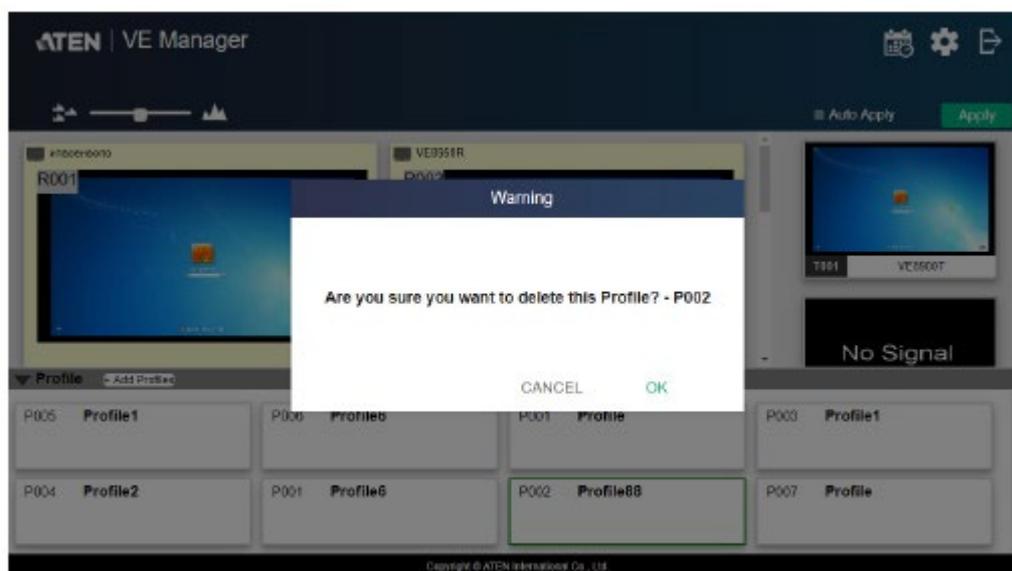
- ◆ **Profile Name (プロフィール名)**: プロファイル名を変更できます。変更時は新しい名称を入力してください。
- ◆ **Receivers / Video Walls (レシーバー/ビデオウォール)**: オレンジ色のボックスをクリックしてください。このプロフィールに追加するレシーバーやビデオウォールを選択します。[Select All]を選ぶと、すべてを一括選択できます。もう一度クリックすると、すべて解除されます。

設定が完了したら、[DONE(完了)]をクリックしてください。

編集内容が保存され、画面が終了します。

削除

プロフィールを削除する場合は、[Delete (削除)]をクリックします。



削除操作を行うと、確認画面が表示されます。削除する場合は[OK]をクリックしてください。取り消す場合は[CANCEL (キャンセル)]をクリックします。

※ 削除すると、そのプロフィールは復元できません。実行前に内容をご確認ください。

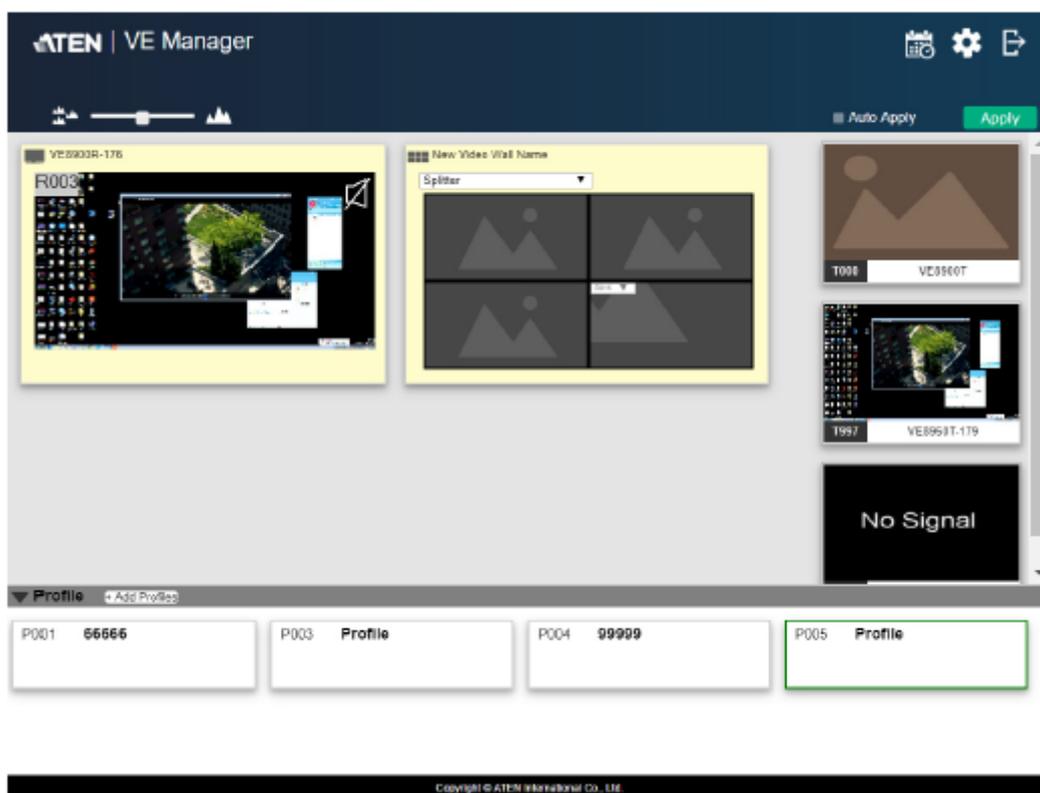
切断

ビデオウォールから現在のプロフィールを解除する場合は、[Disconnect (切断)]をクリックします。切断すると、ビデオウォールは未割り当ての状態になります。映像は表示されません。

プロフィールの選択/適用

作成したプロフィールは、一括で同時に画面の切り替えができます。設定を反映する手順は、次のとおりです。

1. プロフィール一覧を表示します。
2. 適用したいプロフィールをクリックします。選択すると、画面にプレビューが表示されます。



プレビュー画面には、対象のレシーバー／ビデオウォールが表示されます。

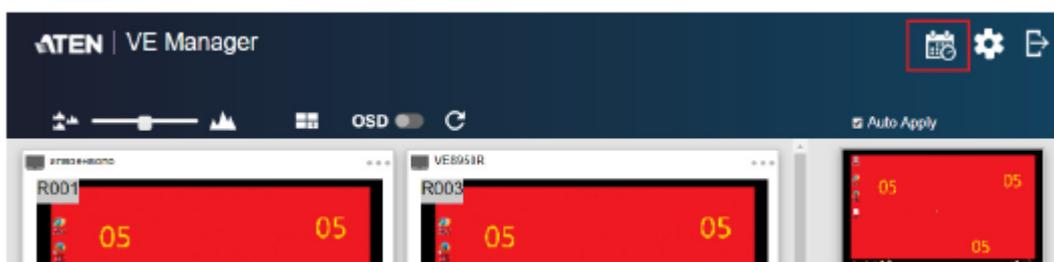
- 背景が黄色:設定は未適用の状態
- 背景がグレー:ビデオウォールが未割り当ての状態
- 背景が無色:現在そのプロフィールが適用中

3. 「Apply」(適用)をクリックします。
4. 設定が反映され、プロフィールにて設定したクロスポイントが各画面に表示されます。

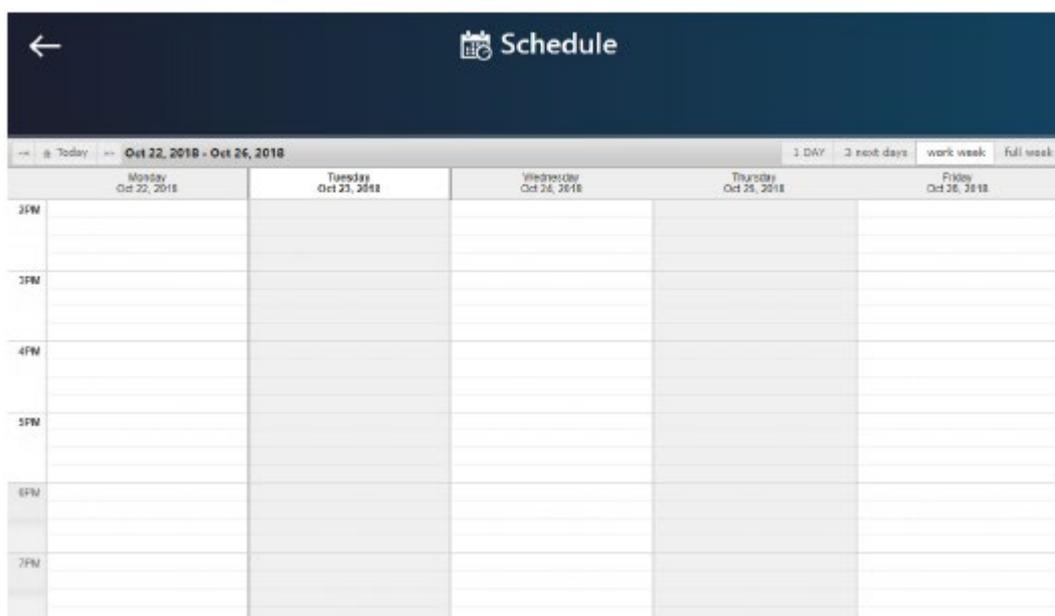
プロフィールのスケジュール設定

プロフィールにスケジュールを設定する手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で、画面右上にあるプロフィールスケジュールのアイコン()をクリックしてください。



スケジュールが未設定の場合は、下図のように時間割が空白の状態が表示されます。



この画面では、現在のスケジュールの表示形式を「1 DAY」(1日)、「3 next days」(3日)、「work week」(月～金のみ表示)、「full week」(1週間)から選択することができます。

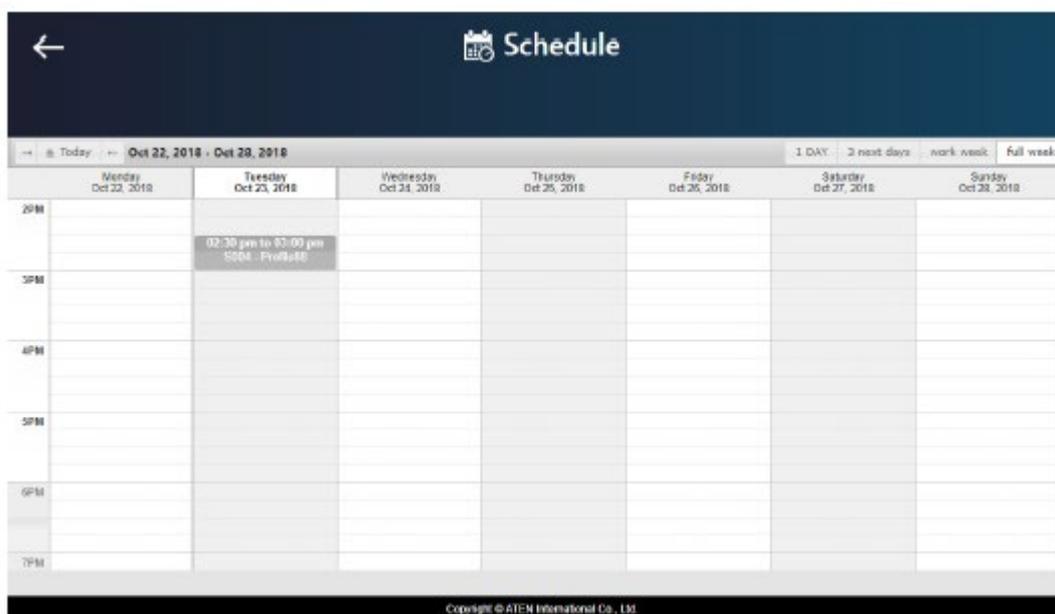
2. スケジュールの日時をクリックして選択し、設定を行ってください。下図はその例です。

3. 必要に応じて、スケジュールの編集/追加を行ってください。

- ◆ **Status(状態)**: 作成したスケジュールの有効/無効を設定します。有効にする場合は [Enable] を選択してください。
- ◆ **Profile(プロファイル)**: 適用するプロファイルを選択します。
- ◆ **Start Date(開始日)**: 開始日を選択または入力してください。
- ◆ **End Date(終了日)**: 終了日を選択または入力してください。
- ◆ **Start Time(開始時刻)**: 開始時刻を選択または入力してください。
- ◆ **End Time(終了時刻)**: 終了時刻を選択または入力してください。
- ◆ **Repeat(繰り返し)**: スケジュールの実行頻度を設定します。
 - **Once(1回のみ)**: 指定日時に1回だけ実行します。
 - **Daily(毎日)**: 毎日同じ時間に実行します。
 - **Weekly(毎週)**: 実行する曜日を選択できます。複数の曜日を指定可能です。

- **Monthly(毎月)**: 毎月実行します。実行日や実行期間を指定できます。

4. 設定が完了したら[SAVE]をクリックします。変更を破棄する場合は[CANCEL]をクリックしてください。

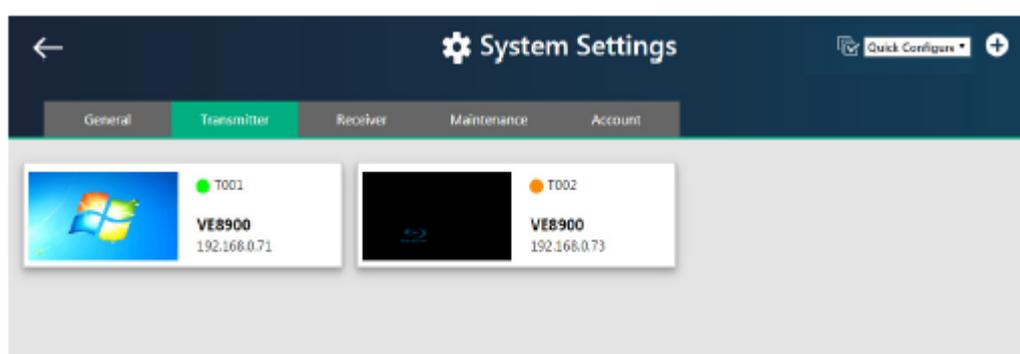


VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの管理

VE8900/VE8950/VE8952 の状態確認

VE8900/VE8950/VE8952 の状態は、次の手順で確認できます。

メイン画面で「」をクリックした後、「Transmitter」(トランスミッター)または「Receiver」(レシーバー)タブを選択します。



各デバイスには色付きの丸印が表示されます。色によって現在の状態を確認できます。

色	説明
グリーン	送受信機が接続中。正常に動作しています。
オレンジ	ネットワークに接続済、スタンバイ状態です。
グレー	オフラインまたは、ネットワーク未接続です。

第5章 システム設定

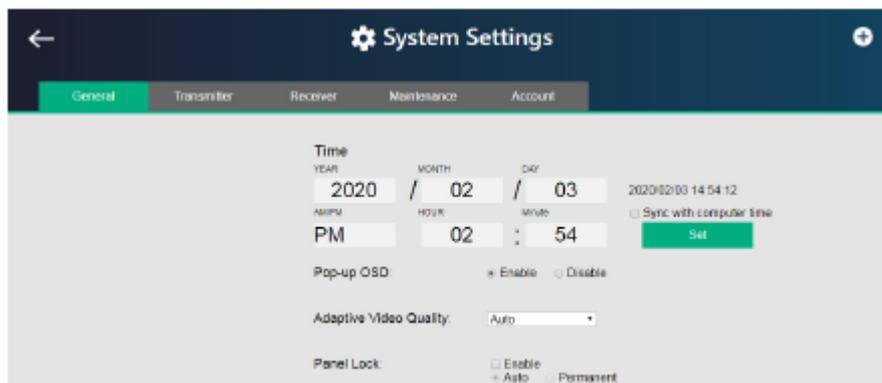
概要

「System Settings (システム設定)」画面では、次の設定が行えます。

- 日付・時刻の設定
- 接続中の VE8900/VE8950/VE8952 の設定
- デバイスのファームウェアアップグレード
- VE マネージャーの設定バックアップ

全般設定

「General (全般)」タブでは、日付・時刻およびパネルロックの設定を行います。



メイン画面で「」をクリックし、「**General**」(全般)タブをクリックします。

- ◆ **Date and time (日時)**: 日時を入力します。設定後、[Set (設定)]をクリックすると保存されます。
- ◆ **Sync with computer time (コンピューターの時刻と同期)**: リモートアクセスしているPCの時刻と同期する場合は、チェックを入れます。その後、[Set (設定)]をクリックしてください。

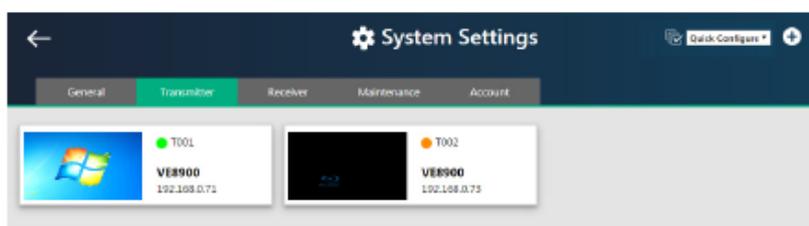
- ◆ **Pop-up OSD (OSD のポップアップ)** : 有効にすると、映像ソースを切り替えた際に OSD を表示します。無効にすると、OSD は表示されません。
- ◆ **Video Quality (ビデオ品質)** : 表示する映像の画質を選択できます。
- ◆ **Panel Lock (パネルロック)** :
 - 「**Permanent (常時)**」 : すべての VE8900/VE8950/VE8952 本体の各ボタン操作を常にロックします。解除する場合は、対象デバイスの **[Enable]** を無効にしてください。
 - 「**Auto (自動)**」 : 1 分間操作がない場合に、自動で本体ボタン操作をロックします。解除するには、対象デバイスの **[Down (▼)]** ボタンを 3 秒間長押しします。
- ◆ **Installation Wizard (インストールウィザード)** : 右上にある「」をクリックすると、インストールウィザードを開きます。詳細については、p.37「VE マネージャーへのログインと設定」を参照してください。

「**Apply**」(適用)をクリックすると、設定内容が接続中の VE8900/VE8950/VE8952 に反映されます。

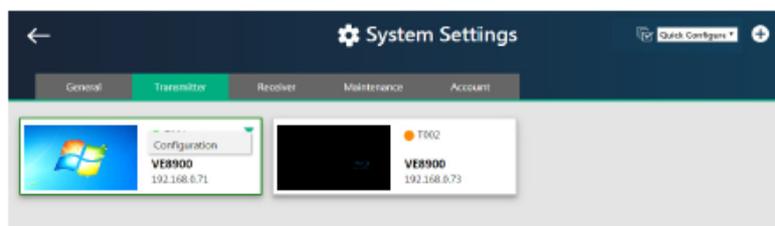
トランスミッターの設定

「Transmitter(トランスミッター)」タブでは、ネットワーク内のデバイス登録が完了した VE8900T／VE8950T／VE8952T を表示し、各種設定を行います。

1. メイン画面で「」をクリックし、「**Transmitter**」(トランスミッター)タブをクリックします。登録済みのトランスミッターVE8900T/VE8950T/VE8952T の一覧が表示されます。



2. 設定したいトランスミッターにカーソルを合わせます。枠の右上に緑色の矢印が表示されます。
3. 緑色の矢印をクリックします。ドロップダウンメニューが表示されます。



4. 「**Configuration**」(設定)をクリックします。設定画面が表示されます。



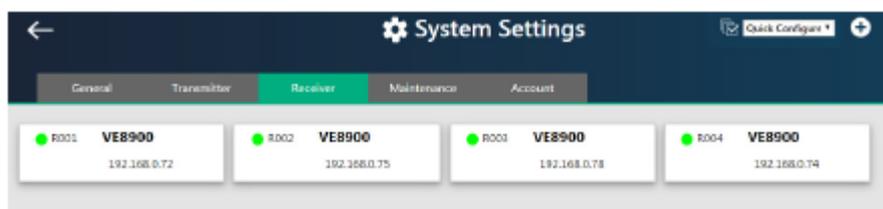
5. 必要に応じて各項目を設定してください。
- ◆ **Name(名前)**: トランスミッターの名称を変更します。
 - ◆ **IP Address(IP アドレス)**: IP アドレスの取得方法を選択します。初期設定は[System Auto(自動割り当て)]です。
 - **DHCP**: DHCP サーバーから自動で IP アドレスを取得します。
 - **System Auto(自動)**: VE マネージャーが自動で IP アドレスを割り当てます。
 - **Manual(手動)**: IP アドレスを手動で設定します。IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力してください。
 - ◆ **Audio In(オーディオ入力)**: 入力する音声信号の種類を選択します。
 - ◆ **EDID**: 接続されたディスプレイの EDID 情報を基に、入力解像度を最適化します。
 - **Default(デフォルト)**: ATEN のプリセット EDID を使用します。
 - **Auto(自動)**: 接続中のディスプレイすべての EDID を読み出し共通して利用できる解像度を設定します。ディスプレイ再接続ごとにすべての再検出を行います。
 - **Manual(手動)**: ユーザー指定の設定を適用します。
 - **Remix(リミックス)**: 接続中のディスプレイすべての EDID を読み出し共通して利用できる解像度を設定します。ディスプレイ再接続時の自動再検出は行いません。モード選択時に検出を実行します。
 - **RS-232 Baud Rate(RS-232 ボーレート)**: 使用環境に合わせて通信速度を選択します。
 - **HDCP**: 初期設定では有効です。必要に応じて有効/無効を切り替えます。
 - **Default(デフォルト)**: クリックすると、トランスミッターの設定を初期値に戻します。
6. 設定が完了したら[SAVE]をクリックします。変更内容が保存されます。

レシーバーの設定

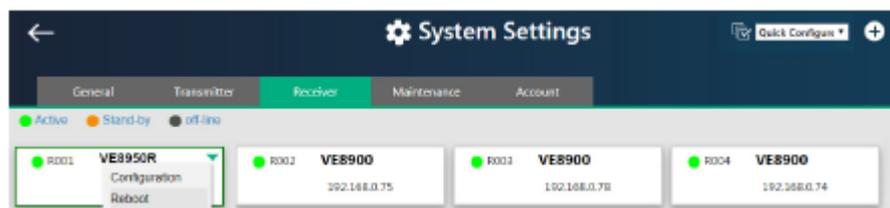
「Receiver (レシーバー)」タブでは、ネットワーク内のデバイス登録が完了した VE8900R／VE8950R／VE8952R の設定を行います。

レシーバーの設定にアクセスするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メイン画面で「」をクリックし、「Receiver」(レシーバー)タブをクリックします。登録済の VE8900R/VE8950R/VE8952R が一覧表示されます。



2. 設定したいレシーバーにカーソルを合わせます。プレビュー右上に緑色の矢印が表示されます。
3. 緑色の矢印をクリックします。ドロップダウンメニューが表示されます。



4. ドロップダウンメニューから「**Configuration**」(設定)をクリックすると、下図のような画面が表示されます。

The screenshot shows a configuration window for a device named R001. The 'Name' field contains 'VE5500'. Under 'IP Address', the 'Manual' option is selected, and a sub-form shows 'IP Address' as 192.168.0.72, 'Subnet Mask' as 255.255.255.0, and 'Gateway' as 192.168.0.254. The 'Connected TX' dropdown is set to 'T001'. On the right, 'IR/RS232' and 'USB' are both set to 'Manual'. 'Fast Switching' is set to '1920x1080' and 'RS232 Baudrate' is '115200'. At the bottom right, there are three buttons: 'Default' (red), 'CANCEL' (grey), and 'SAVE' (green).

5. 必要に応じて各項目を設定してください。

- ◆ **Name(名前)**: レシーバーの名称を変更します。
- ◆ **IP Address(IP アドレス)**: IP アドレスの取得方法を選択します。初期設定は[System Auto(自動割り当て)]です。
 - **DHCP**: DHCP サーバーから自動で IP アドレスを取得します。
 - **System Auto(自動)**: VE マネージャーが自動で IP アドレスを割り当てます。
 - **Manual(手動)**: IP アドレスを手動で設定します。IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力してください。
- ◆ **Connected TX(接続 Tx)**: このレシーバーに接続するトランスミッターを選択します。
- ◆ **IR/RS-232**: IR/RS-232 信号のソースを設定します。デフォルトでは、無効 (**Manual** > **N/A**) です。
 - **Follow Video Path(ビデオパスに従う)**: 映像を取得しているトランスミッターから IR /RS-232 信号を受信します。
 - **Manual(手動)**: 任意のトランスミッターから IR /RS-232 信号を取得します。
- ◆ **USB**: USB デバイスに対してソースを設定します。
 - **Follow Video Path(ビデオパスに従う)**: 映像を取得しているトランスミッターから USB を接続します。
 - **Manual(手動)**: 任意のトランスミッターと USB 接続をします。
- **Fast Switching(高速切替)**: 高速切替用の解像度を設定します。

注意: 異なる解像度の映像ソースがあった場合、ソースの切り替えによって表示不具合の原因となる場合がございます。安定した高速切り替えをする場合は、ビデオソースと同じ解像度に設定することを推奨します。また、すべてのレシーバーで同じ解像度に統一してください。

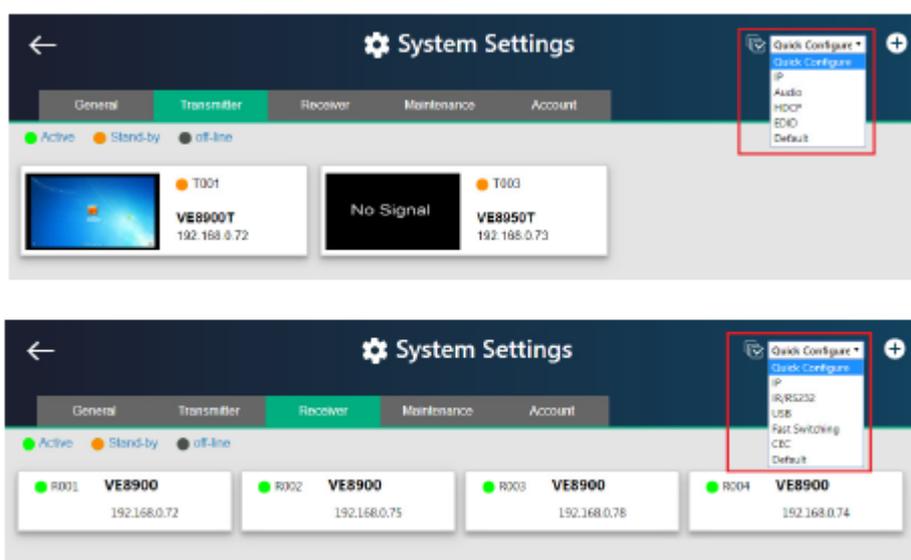
- **RS-232 Baud Rate (RS-232 ボーレート):** ドロップダウンメニューから、使用する通信速度を選択します。
- **Default (デフォルト):** クリックすると、設定中のレシーバーユニットを初期設定に戻します。

6. 「SAVE」(保存)をクリックして、変更内容を保存してください。

一括設定

一括設定では、トランスミッターおよびレシーバーに対して同じ設定をまとめて適用できます。一括設定は複数台へ同時に反映されます。運用中のシステムに影響が出ないことを確認してから実行してください。

1. 右上の[Quick Configuration]をクリックします。



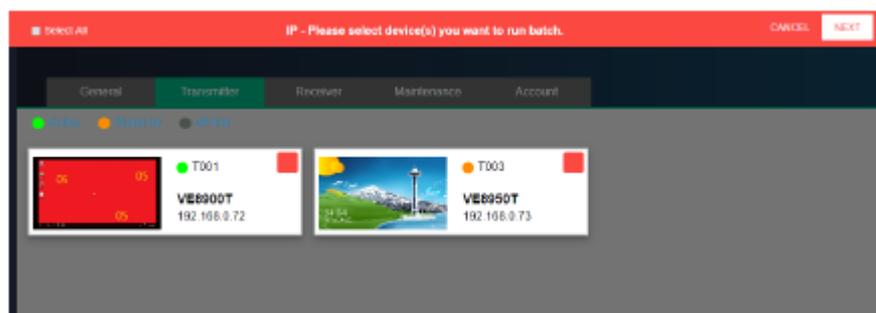
2. ドロップダウンメニューから設定項目を選択します。

表示されるメニュー内容は、「Transmitter」タブと「Receiver」タブで異なります。

◆ トランスミッターは p.65「トランスミッターの設定」を参照してください。

◆ レシーバーは p.67「レシーバーの設定」を参照してください。

以下は、トランスミッターの IP アドレス変更時の凡例画面となります。

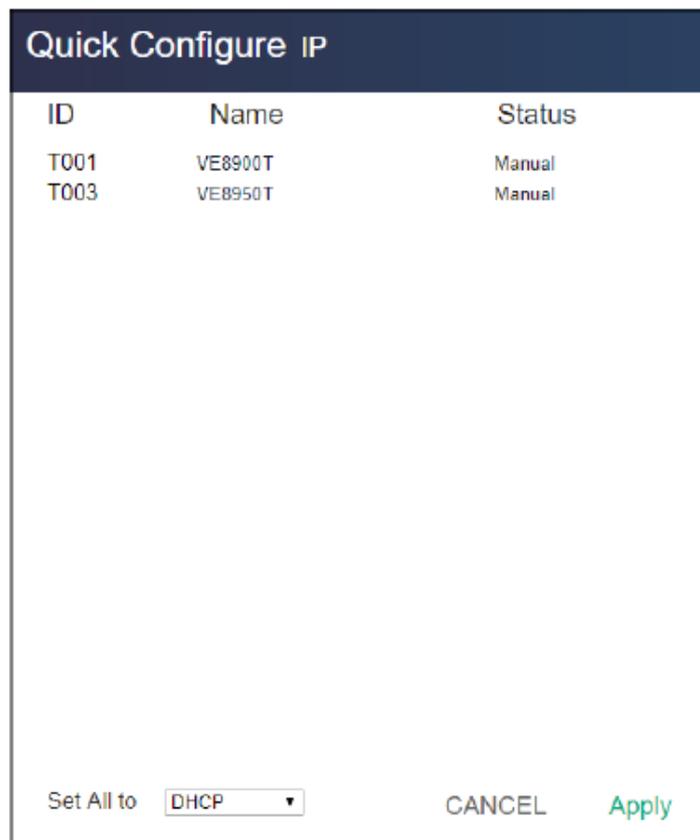


3. 設定対象となるデバイスにチェックを入れてください。または、一覧にあるすべてのデバイス

を選択する場合は、左上にある「**Select All**」(すべて選択)にチェックを入れてください。そうしたら、「**NEXT**」(次へ)をクリックしてください。

「**Quick Configuration**」(クイック設定)ウィンドウが表示されたら、各デバイスの現在の状態を確認することができます。

ウィンドウ下部では設定を行うためのドロップダウンメニューを利用することができます。



The screenshot shows a window titled "Quick Configure IP". It contains a table with three columns: "ID", "Name", and "Status". The table lists two devices: T001 (VE8900T) and T003 (VE8950T), both with a status of "Manual". At the bottom of the window, there is a "Set All to" label followed by a dropdown menu currently set to "DHCP". To the right of the dropdown are two buttons: "CANCEL" and "Apply".

ID	Name	Status
T001	VE8900T	Manual
T003	VE8950T	Manual

Set All to CANCEL Apply

4. 目的の設定を選択したら、「**Apply**」(適用)をクリックして、すべてのデバイスに設定を適用してください。

メンテナンス

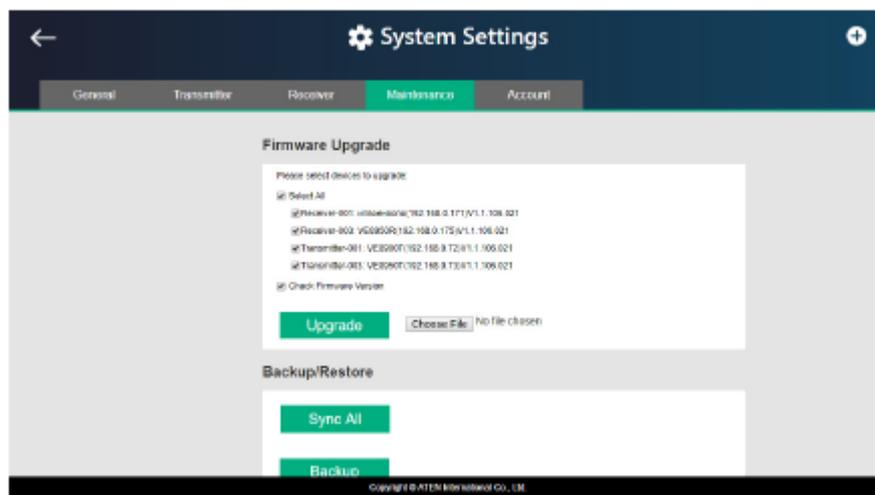
「Maintenance (メンテナンス)」タブでは、次の操作が行えます。

- ファームウェアアップグレード
- レイアウトや設定のバックアップ
- 設定の復元

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのファームウェアアップグレード

デバイスのファームウェアを更新する手順は、次のとおりです。

1. メイン画面で「」をクリックしてから、「**Maintenance**」(メンテナンス)タブをクリックします。
接続中のトランスミッターおよびレシーバーが表示されます。各機器のバージョン情報も確認できます。



2. 「**Choose File**」をクリックし、用意したファームウェアファイルを選択します。
3. アップグレード対象のデバイスを選択します。更新不要の機器(最新バージョンの個体など)はチェックを外してください。
4. 初期設定では、旧バージョンへの上書きは無効です。アップグレードとバージョンのロールバックを両方適用する場合は、「**Check Firmware Version**」(ファームウェアのバージョンを確認する)の項目からチェックを外してください。
5. 「**Upgrade**」をクリックすると、更新が開始されます。

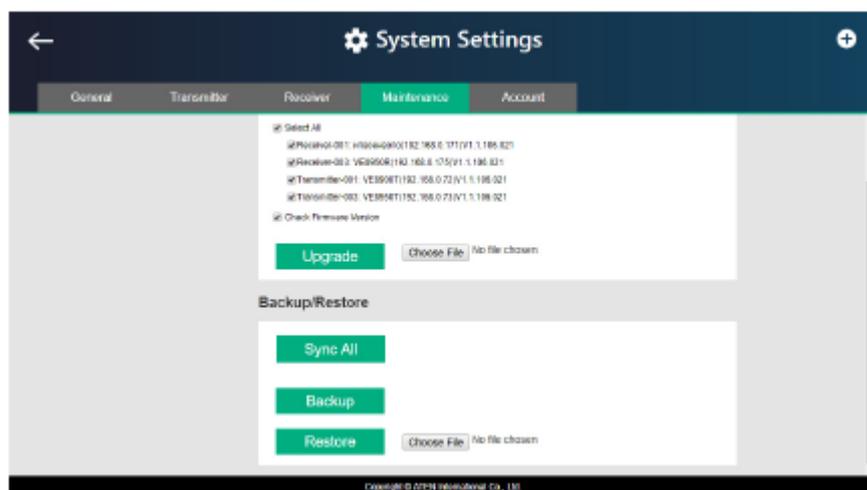
全デバイスの同期

デバイスを追加または交換した場合は、[Sync All(すべて同期)]をクリックしてください。システムが接続中の機器を再認識します。

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のバックアップ

トランスミッターおよびレシーバーのレイアウトや設定は、バックアップとして保存できます。機器交換時や設定移行時に使用します。

1. メイン画面で「」をクリックしてから、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



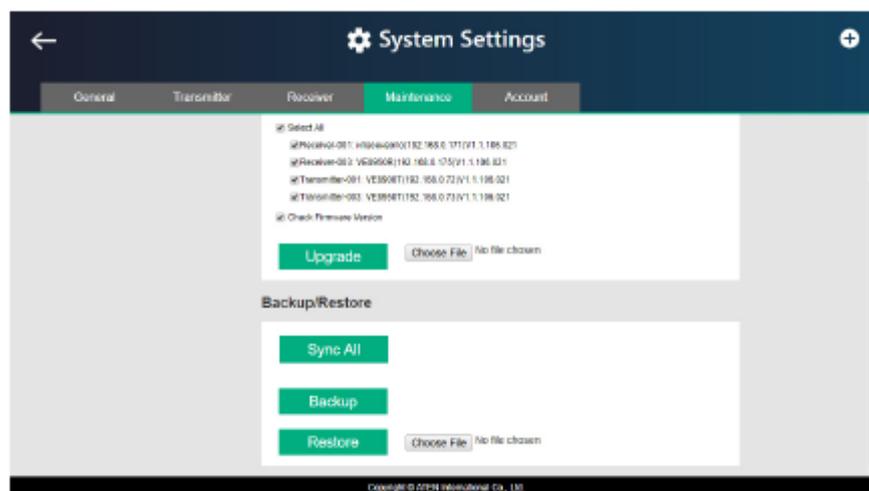
2. 「Backup」(バックアップ)をクリックしてください。バックアップが完了すると、確認メッセージが表示されます。

※ 復元を行う場合は[Restore]を使用します。復元すると現在の設定は上書きされます。

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のリストア

保存済みのバックアップデータを使用して、設定を VE マネージャーに復元できます。

1. メイン画面で「」をクリックしてから、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



2. [Choose File]をクリックし、バックアップファイルを選択します。
3. 「Restore」(リストア)をクリックし、VE マネージャーに対して設定の上書き処理を開始してください。復元が完了すると、確認メッセージが表示されます。また、復元内容によっては本体再起動をします。

※ リストアを実行すると、現在の設定は上書きされます。実行前に必要なバックアップを取得してください。

リカバリーモード

次の場合は、リカバリーモードを使用してください。この方法にて、本体の復旧が出来ない場合は ATEN サポートまでお問い合わせください。

- ◆ ファームウェア更新が途中で中断された場合
- ◆ メインボードの更新に失敗した場合
- ◆ 起動ができるが、特定の機能が利用できなくなってしまった場合
- ◆ 電源が入るものの、再起動を繰り返す場合

VE8900／VE8950／VE8952 をリカバリーモードで起動する手順は次のとおりです。

1. 本体の電源を外した状態にします
2. **Prev(+)**ボタンを押したままにします。
3. ボタンを押したまま電源を入れます。

正しくリカバリーモードで起動できると、本体の 7 セグ LED 部分にて「UPG」という表示になります。この表示になったらリモートからアクセスして、再度ファームウェアの書き込みを行ってください。

アカウントの設定

VE マネージャーでは、次の 2 種類のアカウントを使用できます。

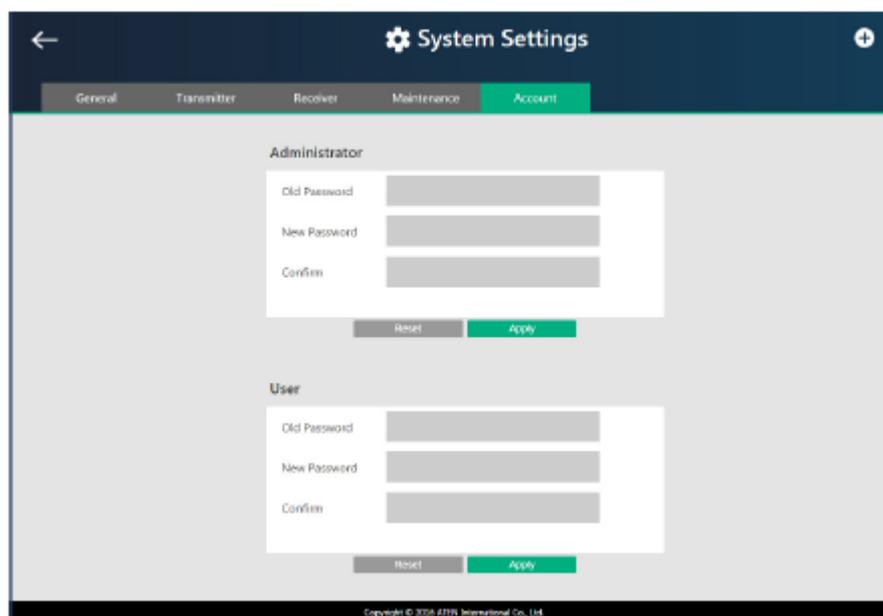
- Administrator(管理者)
- User(ユーザー)

初期設定のパスワードと操作権限は、以下のとおりです。

ユーザータイプ	初期パスワード	操作権限
Administrator (アドミニストレーター)	password	すべての設定変更が可能
User (ユーザー)	password	ソースの割り当ておよびビデオウォールのレイアウト設定のみ可能

デフォルトパスワードを変更するには、メイン画面で「」をクリックしてから、「Account」(アカウント)タブをクリックしてください。変更したいアカウントを選びます。

現在のパスワードと新しいパスワードを入力します。[Apply]をクリックすると変更が保存されます。



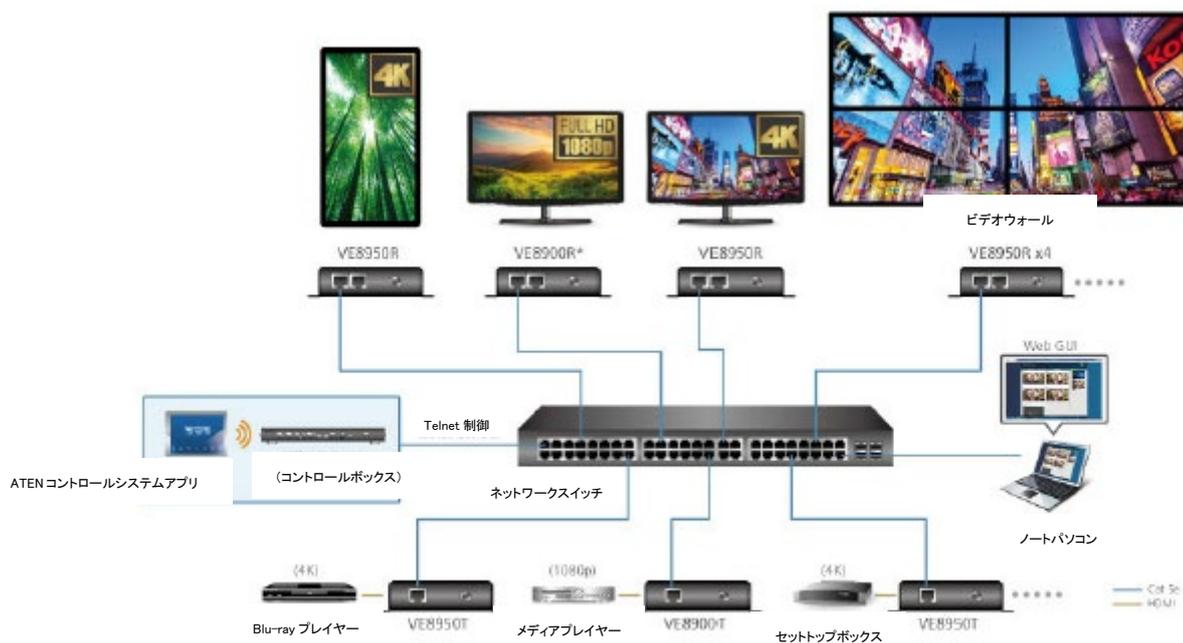
第6章 CLI コマンド

概要

VE8900/VE8950/VE8952 のデバイスは、コンピューターや ATEN コントロールボックスから、Telnet、TCP、または RS-232 コマンドを使って、管理や設定を行うことができます。

操作を始める前に

お使いのシステムにおいて、PC または ATEN コントロールボックスが、下図のようにイーサネットスイッチに接続されていることをご確認ください。



注意: VE8900R は最大 1080p の解像度に対応しています。ただし、4K から 1080p へのダウンスケールには対応していません。

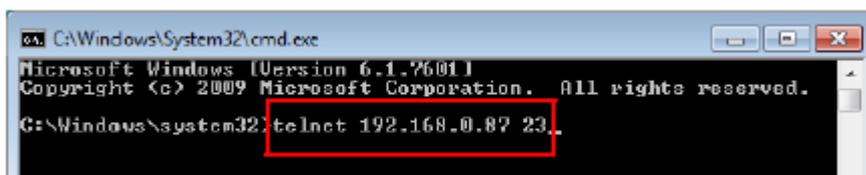
コマンドの実行

次の操作方法は、コンピューターからコマンドを実行することを想定しています。ATEN コントロールボックスからコマンドを実行する方法については、ATEN コントロールシステムのユーザーマニュアルを参照してください。コマンドは次の手順で実行します。

1. 接続されているコンピューターで、管理者としてコマンドプロンプトを起動してください。
2. お使いのコンピューターでサポートされるコマンドの種類に応じて、次の手順に従って操作を行い、システムに接続してください。

◆ Telnet 接続

コマンドプロンプトで、お使いのシステムにおけるレシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R の IP アドレス(いずれか 1 台)とポート番号 **23** を入力してください。下図は、その例です。

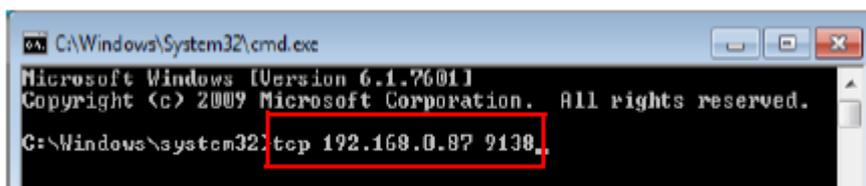


```
C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>telnet 192.168.0.87 23
```

◆ TCP 接続

コマンドプロンプトで、お使いのシステムにおけるレシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R の IP アドレス(いずれか 1 台)とポート番号 **9138** を入力してください。下図は、その例です。



```
C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>tcp 192.168.0.87 9138
```

◆ RS-232 接続

VE マネジャーで、すべてのレシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R の IR/RS-232 を「Manual」(手動)に設定し、「Command Mode」(コマンドモード)オプションを選択してください。

R001

Name: VE8900

IP Address:

- DHCP
- System Auto
- Manual
 - IP Address: 192.168.0.72
 - Subnet Mask: 255.255.255.0
 - Gateway: 192.168.0.254

Connected TX: T001

IR/RS232:

- Follow Video Path
- Manual **Command Mode**

USB:

- Follow Video Path
- Manual N/A

Fast Switching: 1920x1080

RS232 Baudrate: 115200

Default CANCEL SAVE

接続が確立すると、「Welcome to CLI mode」(CLI モードへようこそ)というメッセージが表示されます。

3. 実行したいコマンドを入力してください。
コマンド構文に関する詳細は、p.80「コマンド」を参照してください。
4. [Enter]キーを押して、コマンドを実行してください。
5. コマンドが正常に終了すると、システム側から確認メッセージが表示されます。
6. セッションを終了するには、コマンドプロンプトで **logout** と入力し、[Enter]キーを押してください。

コマンド

基本操作

- ◆ CLIコマンドの基本構成は、次のとおりです。
コマンド名 + パラメーター1 + パラメーター2 + 操作1 + 操作2
- ◆ 必ず、コマンド名を最初に入力し、その後に1つ、ないしは複数のパラメーターを指定してください。また、操作があれば、その後に入力してください。
- ◆ 複数のパラメーターがある場合でも、入力順は実行結果に影響しません。
例えば、次のコマンドは両方とも同じタスクを実行します。
コマンド名 + パラメーター1 + パラメーター2
コマンド名 + パラメーター2 + パラメーター1
- ◆ 複数の操作を指定する場合も、入力順は実行結果に影響しません。同じ結果となります。
コマンド名 + 操作1 + 操作2
コマンド名 + 操作2 + 操作1
- ◆ コマンド構文は次の表記法に則って説明します。

表記法	説明
+	コマンド間の半角スペースを表します。
[]	省略可能な項目です。入力時は括弧を含めません。
<引数>	ユーザーが入力する値です。実行時は山括弧を含めません。
	コマンドラインにおいて、相互に排他的な複数のオプションを示します。コマンドラインには、この記号を含めず、オプションだけを入力してください。

ソースの切り替え

ディスプレイに表示するソースを変更するには、次の構文でコマンドを入力します。

sw + i<ポート> + [o<ポート>] + on | off + ¥r¥n

操作	説明
i<ポート>	入力ソースを指定します。VE8900T／VE8950T／VE8952T の ID、MAC アドレス、または IP アドレスを入力します。
o<ポート>	出力先を指定します。VE8900R／VE8950R／VE8952R の ID、MAC アドレス、または IP アドレスを入力します。省略した場合は、CLI 接続中の出力先が対象になります。
on	指定されたコマンドを有効にします。
off	現在の接続を切断します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ CLI 接続中のレシーバーで任意のトランスミッターから、IP アドレスが 10.0.90.11 のトランスミッターに切り替える場合：

sw i10.0.90.11 on

- ◆ ID が 05 の VE8950R を、ID が 01 の VE8950T に接続する場合：

sw i1 o5 on

- ◆ IP アドレスが「10.0.70.43」の VE8900T トランスミッターから、ID が 3 の VE8900R レシーバーへの接続を切断する場合：

sw i10.0.70.43 o3 off

ビデオ・USB・RS-232・IR パスの切り替え

このコマンドを使うと、ビデオ、USB、RS-232、また IR の伝送パスを切り替えます。この機能を使用するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

sw + i<ポート> + all | video | usb | serial | ir + o<ポート> + ¥r¥n

操作	説明
i<ポート>	入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター)デバイスのデバイス ID を表します。
o<ポート>	出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID を表します。
all	すべての伝送パス(指定されたトランスミッターのビデオ、USB、IR を含む)を表します。
video	指定されたトランスミッターのビデオパスを表します。
usb	指定されたトランスミッターの USB パスを表します。
serial	指定されたトランスミッターの RS-232 パスを表します。
ir	指定されたトランスミッターの IR パスを表します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ ID が 3 の VE8900T トランスミッターのビデオパスを、ID が 4 の VE8900R レシーバーへと切り替えるには、次のコマンドを入力します。

sw i3 video o4

- ◆ ID が 5 の VE8950T トランスミッターの USB パスを、ID が 6 の VE8950R レシーバーへと切り替えるには、次のコマンドを入力します。

sw i5 usb o6

ビデオ・USB・RS-232・IR パスの無効化

このコマンドを使うと、指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーに対するビデオ、USB、RS-232、また IR の伝送パスを無効にします。この機能を使用するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

sw + o<ポート> + all | video | usb | serial | ir + off + ¥r¥n

操作	説明
o<ポート>	出力 (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) デバイスのデバイス ID を表します。
all	すべての伝送パス (指定されたトランスミッターのビデオ、USB、IR を含む) を表します。
video	指定されたトランスミッターのビデオパスを表します。
usb	指定されたトランスミッターの USB パスを表します。
serial	指定されたトランスミッターの RS-232 パスを表します。
ir	指定されたトランスミッターの IR パスを表します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ ID が 4 の VE8900R レシーバーのビデオ、USB、RS-232、および IR の各伝送パスを無効にするには、次のコマンドを入力します。

sw o4 all off

ポート切替アラートの表示

このコマンドを使うと、VE マネジャー、VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのプッシュボタン、または IR リモコンを使ってポート切替が行われた際に、コマンドラインのインターフェースでアラートメッセージを表示します。この機能を有効または無効にするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

echo + on | off + ¥r¥n

操作	説明
on	コマンドプロンプトウィンドウでアラートを送信して、ポート切替設定を通知します。例えば、ユーザーが、ID が 2 の VE8900T を、ID が 3 の VE8900R に割り当てる場合、システムはコマンドプロンプトのウィンドウに次のメッセージを送信します。 sw o2 i3 on
off	ポート切替のアラートを無効にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

システム設定の確認

このコマンドを使うと、次のシステム設定を確認することができます。

- ◆ ビデオウォールの ID
- ◆ VE8900/VE8950/VE8952 のトランスミッターおよびレシーバーにおける、デバイス ID、MAC ID、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名

システム設定を確認するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

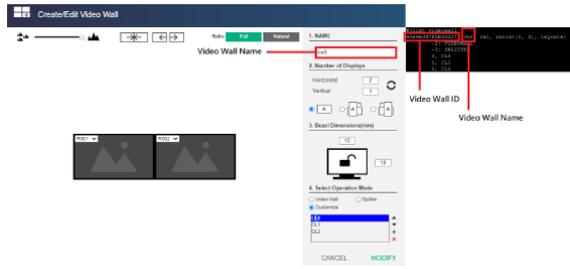
list + rx | tx | device | videowall + ¥r¥n

操作	説明
rx	使用環境における、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーのシステム情報を一覧表示します。この情報には、デバイス ID、MAC ID、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名が含まれます。
tx	使用環境における、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターのシステム情報を一覧表示します。この情報には、デバイス ID、MAC ID、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名が含まれます。
device	使用環境における、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターおよび VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーのシステム情報を一覧表示します。この情報には、デバイス ID、MAC ID、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名が含まれます。
videowall	ビデオウォールの設定を一覧表示します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

ビデオウォールの設定

レイアウトをビデオウォールに適用して、表示するソースを割り当てるには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

vw + f<ビデオウォール ID> + l<レイアウト ID> + [o<ポート>] + i<ポート> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
<p>f<ビデオウォール ID></p>	<p>指定されたレイアウトとソースを表示したいビデオウォールの ID を表します。また、この ID は、対象のビデオウォールで使用されている任意の VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID と置き換えることもできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.85「システム設定の確認」を参照してください。</p> <p>例:</p> 
<p>l<レイアウト ID></p>	<p>指定されたビデオウォールに適用したいレイアウトの名前を表します。レイアウト ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.85「システム設定の確認」を参照してください。また、目的のビデオウォールに適用されたものと同じレイアウトを使用したい場合は、このパラメーターを省略してください。</p> <p>例:</p> 

操作	説明
i<ポート>	使用したい入力 (VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター) デバイスのデバイス ID、MAC ID、IP アドレスを表します。
o<ポート>	指定されたソース (i<ポート>) を表示する出力 (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) デバイスのデバイス ID、MAC ID、IP アドレスを表します。 注意: 指定されたレイアウトでディスプレイを 4 台使用していて、そのうち 2 台が結合されている場合は、各ディスプレイに表示されるソースを表すのに、o<ポート> + i<ポート> の組み合わせを 3 回入力する必要があります。指定されたレイアウトに結合された画面がない場合は、o<ポート> のパラメーターを省略してください。
on	ビデオウォールの設定と、指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーへの表示を有効にします。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーのビデオウォール設定と表示を無効にします。 注意: off コマンドを使用する場合は、「i<ポート>」の要素を指定しないでください。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ レイアウト 1 を、ID が 8c8f12e62d3c87ef のビデオウォールに適用し、VE8950T (デバイス ID が 2) に接続されたソースをビデオウォールに割り当てて、そのうちのディスプレイ 1 台が VE8900R (IP アドレス: 10.0.66.73) に接続されている場合は、次のコマンドを入力します。

vw f8c8f12e62d3c87ef lLayout 1 o10.0.66.73 i2 on

VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーやビデオウォールのミュート

VE8900R/VE8950R レシーバーやビデオウォールのオーディオ出力をミュートするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

mute + o<ポート> | f<ビデオウォール ID> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
o<ポート>	出力 (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) デバイスのデバイス ID、MAC ID、IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーをミュートするには、アスタリスク(*)を使用してください。
f<ビデオウォール ID>	ミュートに設定したいビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.85「システム設定の確認」を参照してください。
on	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたはビデオウォールのオーディオをミュートに設定します。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたはビデオウォールのオーディオをミュート解除します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレスが「10.0.90.22」の VE8900R レシーバーのオーディオをミュートに設定するには、次のコマンドを入力します。
mute o10.0.90.22 on
- ◆ ビデオウォール ID が 0 のビデオウォールのオーディオをミュートに設定するには、次のコマンドを入力します。
mute f0 on
- ◆ ビデオウォール ID が 1 のビデオウォールのオーディオをミュート解除するには、次のコマンドを入力します。
mute f1 off

ビデオ出力の無効化

指定されたレシーバーや特定のビデオウォールからのビデオ出力を無効にするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

blankscreen + o<ポート> | f<ビデオウォール ID> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
o<ポート>	ビデオ出力を無効にしたい出力 (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) デバイスのデバイスID、MAC ID、IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーからのビデオ出力を無効にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
f<ビデオウォール ID>	ビデオ出力を無効にしたいビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.85「システム設定の確認」を参照してください。
on	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたは特定のビデオウォールのビデオ出力を無効にします。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたは特定のビデオウォールのビデオ出力を有効にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレスが「10.0.90.22」の VE8900R レシーバーのビデオ出力を無効にするには、次のコマンドを入力します。

blankscreen o10.0.90.22 on

- ◆ ビデオウォール ID が 0 のビデオウォールのビデオ出力を有効にするには、次のコマンドを入力します。

blankscreen f0 off

レシーバーにおける OSD 表示の有効化/無効化

指定されたレシーバーにおける OSD 表示を有効または無効にするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

osd + o<ポート> | f<ビデオウォール ID> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
o<ポート>	OSD を表示する出力 (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) デバイスのデバイス ID、MAC ID、IP アドレスを表します。
f<ビデオウォール ID>	OSD を表示するビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.85「システム設定の確認」を参照してください。
on	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの OSD を表示します。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの OSD を非表示にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレスが「10.0.90.22」の VE8900R レシーバーの OSD を表示するには、次のコマンドを入力します。
osd o10.0.90.22 on
- ◆ ビデオウォール ID が 0 のビデオウォールの OSD を表示するには、次のコマンドを入力します。
osd f0 off

EDID モードの設定

指定された VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターで EDID モードを設定するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

edid + i<ポート> | <EDID モード> + ¥r¥n

操作	説明
i<ポート>	<p>目的となるディスプレイのソースに接続されている出力 (VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター) デバイスのデバイス ID、MAC ID、IP アドレスを表します。</p> <p>お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。</p>
<EDID モード>	<p>指定された VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターに設定する EDID モードを表します。入力できるモードは、default、remix、auto、manual です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ default: ATEN プリセットの EDID リストに基づいて、入力を最適な設定に定義します。 ◆ remix: 入力に対して、接続されているディスプレイの最適な解像度を設定します。ディスプレイの挿抜ごとに再検出は行わず、モード選択実行時に検出を行います。 ◆ auto: 入力に対して、接続されているすべてのディスプレイに最適な解像度を設定します。ディスプレイの挿抜ごとに再検出を行います。 ◆ manual: 入力に対して、ユーザー定義の設定を行います。 <p>注意: EDID モードが「manual」または「remix」の場合は、設定メニューから EDID を選択してください (p.52「Configuration Menu (設定メニュー)」参照)。</p>
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ デバイス ID が 16 の VE8900T トランスミッターの EDID モードを「auto」(自動) に設定するには、次のコマンドを入力します。

edid i016 auto

VE8900/VE8950/VE8952 の再起動

VE8900/VE8950/VE8952 を再起動するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

reset + a<ポート> | i<ポート> | o<ポート> + ¥r¥n

操作	説明
a<ポート>	目的となる VE8900/VE8950/VE8952 のレシーバーまたはトランスミッターの MAC ID を表します。
i<ポート>	目的となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952Tトランスミッター)デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
o<ポート>	目的となる出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレスが「10.0.60.13」の VE8900Tトランスミッターを再起動するには、次のコマンドを入力します。
reset i10.0.60.13 または **reset a10.0.60.13**
- ◆ すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを再起動するには、次のコマンドを入力します。
reset o*

ボーレートの設定

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスに対して RS-232 シリアル通信のボーレートを設定するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

reset + a<ポート> | i<ポート> | o<ポート> + <ボーレート> + ¥r¥n

操作	説明
a<ポート>	目的となる VE8900/VE8950/VE8952 のレシーバーまたはトランスミッターの MAC ID または IP アドレスを表します。
i<ポート>	目的となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952Tトランスミッター)デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
o<ポート>	目的となる出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
<ボーレート>	目的のデバイスに設定したいボーレートを表します。入力できるボーレートは、 9600、19200、38400、115200 です。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ デバイス ID が 3 の VE8900Tトランスミッターにおいて、ボーレートを 115200 に設定するには、次のコマンドを入力します。

baud a3 115200

- ◆ すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R で、ボーレートをデフォルトの設定にするには、次のコマンドを入力します。

baud o* 9600

デバイスの状態表示

この機能を使うと、VE8900/VE8950/VE8952 のトランスミッターやレシーバーの状態、あるいは VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターから VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーへの接続の状態を表示することができます。この機能を使用するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

read + [i<ポート>] | [o<ポート>] + ¥r¥n

操作	説明
i<ポート>	目的となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952Tトランスミッター)デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
o<ポート>	目的となる出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの状態を確認するには、次のコマンドを入力します。

read i*

- ◆ IPアドレスが「10.0.80.66」に設定されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの状態を確認するには、次のコマンドを入力します。

read o10.0.80.66

- ◆ VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターからの VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーへの接続の状態を確認するには、次のコマンドを入力します。

read

トランスミッターにおけるオーディオソースの設定

このコマンドを使用すると、指定した VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターのオーディオソースを設定します。

audiomap + a<ポート> | i<ポート> + <ソース> ¥r¥n

操作	説明
a<ポート>	対象の VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの MAC ID または IP アドレスを示します。
i<ポート>	対象となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター) デバイスのデバイス ID を示します。お使いの環境におけるすべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象とするには、アスタリスク(*)を使用します。
<ソース>	対象のトランスミッターに設定するオーディオソースを示します。入力できる値は、 analog と hdmi です。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレスが「10.0.90.19」の VE8900T トランスミッターの HDMI オーディオソースを設定するには、次のコマンドを入力します。

audiomap a10.0.90.19 hdmi

- ◆ IP アドレス「10.0.90.19」の VE8900T トランスミッターのアナログオーディオソースを設定するには、次のコマンドを入力します。

audiomap a10.0.90.19 analog

工場出荷時のデフォルト値の復元

このコマンドを使用すると、VE8900/VE8950/VE8952 本体をリセットします。

restore + a<ポート> | i<ポート> | o<ポート> + ¥r¥n

操作	説明
a<ポート>	対象の VE8900/VE8950/VE8952 (トランスミッターまたはレシーバー) の MAC ID または IP アドレスを示します。お使いの環境におけるすべての VE8900/VE8950/VE8952 (トランスミッターまたはレシーバー) を対象とするには、アスタリスク(*)を使用します。
i<ポート>	対象となる入力ソース (VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター) デバイスのデバイス ID を示します。お使いの環境におけるすべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象とするには、アスタリスク(*)を使用します。
o<ポート>	対象となる出力デバイス (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) のデバイス ID を示します。お使いの環境におけるすべての VE8900R/ VE8950R/VE8952R レシーバーを対象とするには、アスタリスク(*)を使用します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレス「10.0.90.23」の VE8900T トランスミッターをリセットするには、次のコマンドを入力します。
restore a10.0.90.23
- ◆ ID 3 の VE8900T トランスミッターをリセットするには、次のコマンドを入力します。
restore i3
- ◆ ID 5 の VE8900R レシーバーをリセットするには、次のコマンドを入力します。
restore o5

トランスミッターにおける HDCP の有効化/無効化

このコマンドを使用すると、指定した VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの HDCP を有効または無効にします。

hdcp + a<ポート> | i<ポート> + on | off ¥r¥n

操作	説明
a<ポート>	対象の VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの MAC ID または IP アドレスを示します。
i<ポート>	対象の入力ソース (VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター) デバイスのデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを示します。 お使いの環境におけるすべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象とするには、アスタリスク (*) を使用します。
on	指定された VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの HDCP を有効にします。
off	指定された VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの HDCP を無効にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレス「10.0.90.30」の VE8900T トランスミッターの HDCP を有効にするには、次のコマンドを入力します。

hdcp a10.0.90.30

- ◆ ID 3 の VE8900T トランスミッターの HDCP を有効にするには、次のコマンドを入力します。

hdcp i3 on

レシーバーにおける高速切替出力解像度の設定

このコマンドを使用すると、指定された VE8900R/VE8950R/ VE8952R レシーバーの出力解像度を、事前に定義した設定で素早く切り替えます。

fastswitch + a<ポート> | o<ポート> + off | <解像度> ¥r¥n

操作	説明
a<ポート>	対象の VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの MAC ID または IP アドレスを示します。
o<ポート>	対象の出力デバイス (VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー) のデバイス ID、MAC ID、または IP アドレスを示します。お使いの環境におけるすべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象とするには、アスタリスク(*)を使用します。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの高速切替出力解像度を無効にします。
resolution	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーにおいて、事前定義された出力解像度を使用して高速切替を実行します。 有効な入力解像度は、次のとおりです。 4096x2160 、 3840x2160 、 1920x1200 、 1920x1080 、 1280x1024、1280x800、1280x720、1152x972、1024x768、720x576、720x480、640x480、288x972
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ IP アドレスが「10.0.90.56」、解像度が「3840×2160」の VE8900R レシーバーの高速切替出力解像度を有効にするには、次のコマンドを入力します。

fastswitch a10.0.90.56 3840x2160

- ◆ IP アドレスが「10.0.90.56」に設定された VE8900R レシーバーの高速切替出力解像度を無効にするには、次のコマンドを入力します。

fastswitch a10.0.90.56 off

プロフィール名または ID によるプロフィールの適用

このコマンドを使用すると、事前設定されたプロフィールをプロフィール名または ID を使用して適用します。

profile + f<プロフィール ID> ¥r¥n

操作	説明
f<プロフィール ID>	適用する事前設定済みプロフィールを、プロフィール名または ID で指定します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ プロフィール名が「test123」である事前設定されたプロフィールを適用するには、次のコマンドを入力します。

profile ftest123

HDMI ブラックスクリーン出力の有効化/無効化

このコマンドを使用すると、VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの HDMI ブラックスクリーン出力を有効または無効にします。

hdmi blacksreen + on | off ¥r¥n

操作	説明
on	VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターが切断された際に、VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーから HDMI ブラックスクリーンを出力するように設定します。これはデフォルト設定です。
off	VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターが切断されたときに、VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーが信号を出力しないように設定します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの HDMI ブラックスクリーン出力を有効にするには、次のコマンドを入力します。

hdmi blacksreen on

- ◆ VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの HDMI ブラックスクリーン出力を無効にするには、次のコマンドを入力します。

hdmi blacksreen off

CLI Telnet の有効化/無効化

このコマンドを使用すると、Telnet サーバーを有効または無効にします。この Telnet サーバーは、リモート Telnet クライアントから CLI にアクセスできるようにするために、デバイスに組み込まれたものです。

enableclitelnet + on | off ¥r¥n

操作	説明
on	Telnet クライアントを使用したデバイス CLI へのアクセスを有効にします。
off	Telnet クライアントを使用したデバイス CLI へのアクセスを無効にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ Telnet クライアントを使用したデバイス CLI へのアクセスを有効にするには、次のコマンドを入力します。

enableclitelnet on

- ◆ Telnet クライアントを使用したデバイス CLI へのアクセスを無効にするには、次のコマンドを入力します。

enableclitelnet off

-
- 注意:
- ◆ デフォルトでは、Telnet CLI アクセスは有効になっています。
 - ◆ Telnet CLI アクセスが無効になっている場合、Telnet CLI アクセスを再開するには、RS-232 CLI 経由で **enableclitelnet on** コマンドを実行してください。
-

HTTP ウェブアクセスの有効化/無効化

このコマンドを使用すると、デバイスの HTTP ウェブアクセスを有効または無効にします。

enablewebhttp + on | off ¥r¥n

操作	説明
on	HTTP ウェブアクセスを有効にします。デフォルトでは、有効になっています。
off	HTTP ウェブアクセスを無効にします。 注意: HTTP ウェブアクセスを無効にすると、デバイスの設定操作は HTTPS によるウェブアクセスのみに制限されます。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

- ◆ デバイスへの HTTP ウェブアクセスを有効にするには、次のコマンドを入力します。
enablewebhttp on
- ◆ デバイスへの HTTP ウェブアクセスを無効にするには、次のコマンドを入力します。
enablewebhttp off

注意: HTTP ウェブアクセスの設定が変更されると、本体が自動的に再起動します。

第7章

モバイル制御アプリ

概要

VE8900/VE8950/VE8952 モバイル制御アプリは、ソースとディスプレイ間の切り替えや、お使いの VE8900/VE8950/VE8952 デバイスに対するプロファイルの適用およびスケジューリングの再設定が簡単に行えるように設計されたものです。

システム要件

アプリのインストールを行う前に、お使いのモバイルデバイスにおいて、次の対応モバイル OS が使用されていることをご確認ください。

モバイル OS	対応バージョン
iOS	10.0 以上
Android	6.0 以降

アプリのインストールと設定

1. モバイルデバイスに VE8900/VE8950/VE8952 モバイル制御アプリをインストールしてください。
 - a) モバイルデバイスから、App Store  または Google Play  のアイコンをタップしてください。
 - b) 検索ボックスに「VE8900 mobile control」と入力してください。
2. 「VE8900 Mobile Control」アイコンをタップしてアプリをインストールしてください。
3. 画面内の指示に従って次の操作を行ってください。
 - ◆ モバイルデバイスの Wi-Fi サービスを有効にする。
 - ◆ VE8900/VE8950/VE8952 がセットアップされているネットワークに、モバイルデバイスを接続する。

メイン画面

VE8900/VE8950/VE8952 モバイル制御アプリにログインすると、デフォルトでライブビュー画面に遷移します。各機能にアクセスするには、画面下部にあるアイコンを使ってください。また、各タブの機能概要については、下表を参照してください。

注意: アドミニストレーターとして最初にログインする場合は、次のデフォルトアカウントを使用してください。

ユーザーネーム:admin

パスワード:password

セキュリティ上の理由により、システム側からパスワードの変更が求められます。このパスワードには、上記のデフォルトパスワードとは異なる文字列を設定してください。



No.	アイコン	説明
1		このアイコンをタップすると、既に接続が確立されたビデオウォールとレシーバーのライブビューを表示します。

(表は次のページに続きます)

No.	アイコン	説明
2	 Switching	このアイコンをタップすると、表示ソースと対象レシーバーを変更します。
3	 Schedules	このアイコンをタップすると、既存プロファイルのスケジュール設定を行います。新規プロファイルの作成に関する詳細は、p.54「プロファイル」を参照してください。
4	 Settings	このアイコンをタップすると、システム設定の定義、およびトランスミッター/レシーバーのファームウェアアップグレードを行います。

ライブビュー

ディスプレイでライブビューを確認するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン()をタップしてください。そうすると、ビデオウォールとディスプレイの一覧が、選択済みソースと共に表示されます。
2. 一覧を確認するには、上下にスクロールしてください。また、新規ディスプレイを追加したり、設定変更を行ったりした場合は、「Sync」(同期)アイコン()をタップして、再表示してください。

ソースの切り替え

1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン()をタップしてください。
2. ソースを変更したいレシーバーまたはビデオウォールをタップしてください(タップする場所は問いません)。



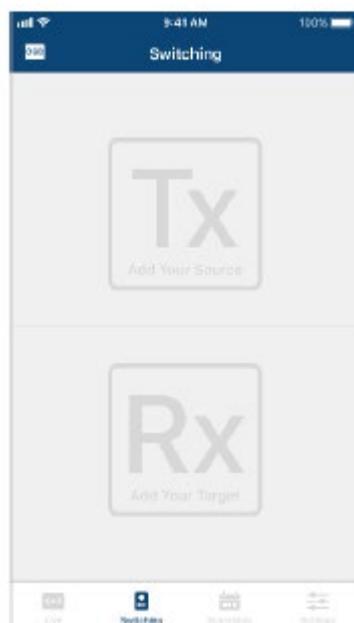
3. 変更したいソースをタップしてください。現在使用しているソースには赤色の枠が表示されます。また、新規ソースはグリーンで表示されます。



4. 選択されたソースのチェックマークアイコンをタップして、設定を適用してください。

複数ソース/ディスプレイの切り替え

1. モバイル制御アプリで、「Switching」(切り替え)アイコン()をタップしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



2. ソースを選択してください。
 - a) 「Tx」をタップして、ソースを追加してください。そうすると、利用可能なトランスミッターの一覧が表示されます。

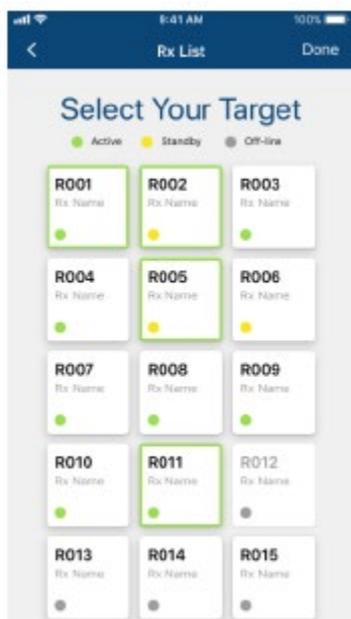


- b) トランスミッターをタップして選択してください。選択されたデバイスはグリーンで表示されます。もう一度タップすると、選択状態を解除します。

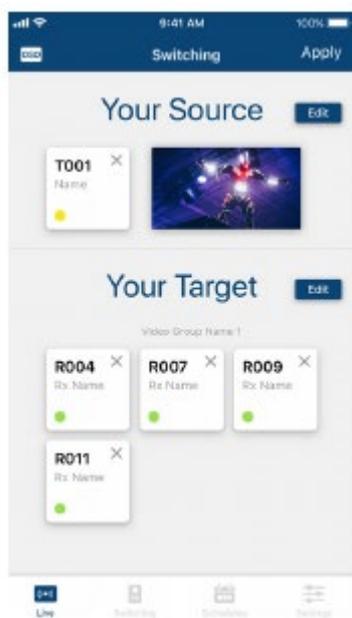


- c) 「Done」(完了)をタップして、デバイスをトランスミッター一覧に追加してください。
3. ディスプレイを1台または複数選択してください。そうしたら、「Rx」をタップして、レーザーを1台または複数追加してください。
- ◆ 選択されたレーザーはグリーンで表示されます。

- ◆ (ビデオウォールや分配器システム用に)他のレシーバーデバイスとグループ化されたデバイスをタップすると、そのグループにおけるすべてのデバイスが同時にグリーンで表示されます。



設定が完了すると、選択したデバイスが Tx と Rx の各リストに追加されます。下図はその例です。

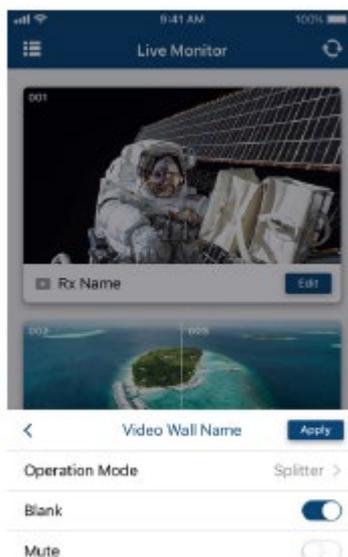


4. 選択したアイテムを編集するには、編集アイコン()をタップしてTxまたはRxの一覧に戻ってください。

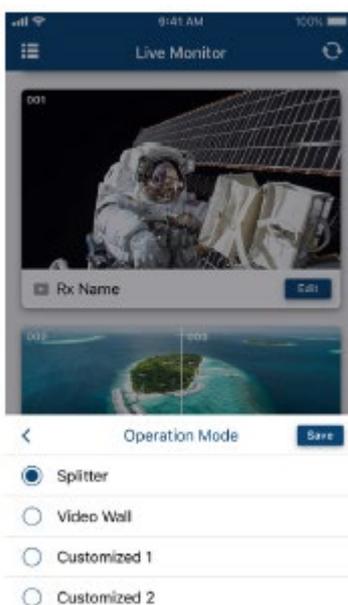
5. 「Apply」(適用)をタップして、設定を完了してください。この変更はすぐに適用されます。

ビデオウォール/ディスプレイにおける操作モードの変更

1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン()をタップしてください。
2. 設定対象となるビデオウォールとディスプレイを見つけたら、「Edit」(編集)アイコン()をタップしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



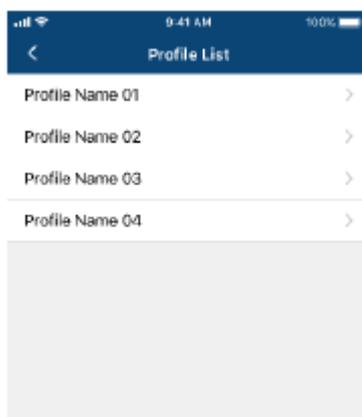
3. 「Operation Mode」(操作モード)をタップして、表示設定を変更してください。各種操作モードに関する詳細は、p.48「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。



表示プロファイルの適用

VE マネジャーを使って既に表示プロファイルを設定している場合は、次の手順に従ってプロファイルを適用してください。プロファイルの作成または編集に関する詳細は、p.54「プロファイルの作成」または p.56「プロファイルの編集/削除/切断」を参照してください。

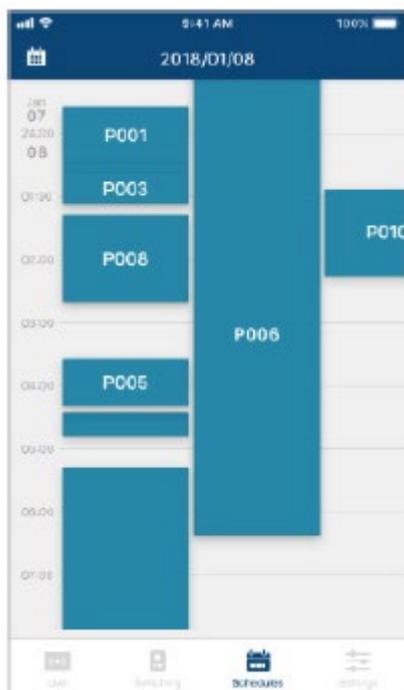
1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン()をタップしてください。
2. 画面左上にあるメニューアイコン()をタップしてください。そうすると、下図のようなプロフィール一覧が表示されます。



3. プロファイルをタップしたら、画面内の指示に従ってプロファイルを適用してください。

プロフィールのスケジュール設定

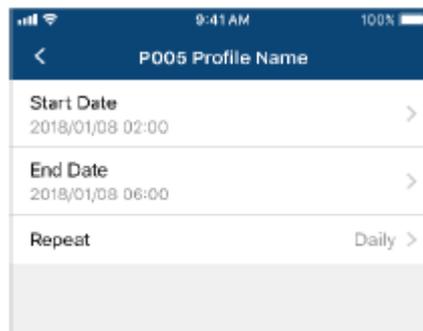
1. モバイル制御アプリで、「Schedule」(スケジュール)アイコン()をタップしてください。そうすると、その日のスケジュールが表示されます。



2. 別の日のスケジュールを表示するには、画面左上にあるカレンダーアイコン()をタップして、ポップアップカレンダーから日付を選択してください。
3. プロファイルを設定したい時間枠をタップしてください。そうすると、選択した時間枠で実行されているプロファイルがすべて表示されます。例えば、4:00～5:00 の時間枠をタップすると、下図のような画面が表示されます。ここでは4つのプロファイルを設定することができます。



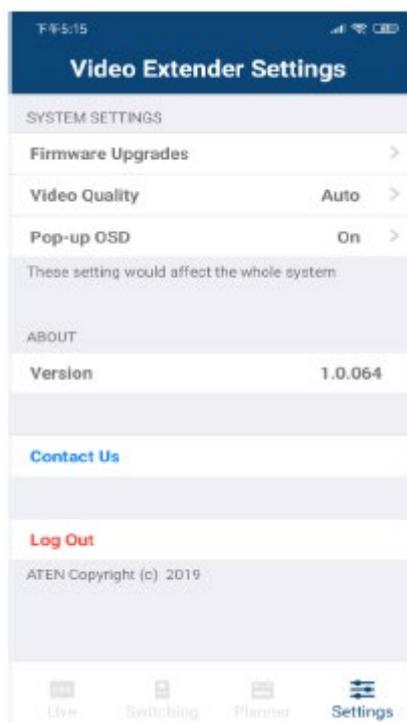
4. プロファイルをタップしたら、画面内の指示に従って、開始時刻、終了時刻、繰り返しモードをそれぞれ設定してください。



注意: 開始時刻と終了時刻の間は 24 時間以内になるように設定してください。プロファイルのスケジュールの繰り返し単位が 24 時間を超える場合は、プロファイルを 2 つに分割することでスケジュールを調整してください。

システムの設定と状態

モバイル制御アプリを使うと、VE8900/VE8950/VE8952 に対して最新のファームウェアが利用可能かどうかを確認することができます。また、このアプリから**ビデオ品質**と**ポップアップ OSD** の設定を行うこともできます。



- ◆ **Firmware Upgrades (ファームウェアアップグレード)** : VE8900/VE8950/VE8952 のトランスミッターおよびレシーバーのファームウェアのバージョンを表示します。また、各トランスミッター/レシーバーの最新ファームウェアが利用可能かどうか、ここで確認することができます。
- ◆ **Video Quality (ビデオ品質)** : ディスプレイのビデオ品質を設定します。
- ◆ **Pop-up OSD (ポップアップ OSD)** : この項目が有効になっていると、ビデオソースの切り替え時に OSD が表示されます。この項目が無効になっていると、OSD は表示されません。

付録

製品仕様

VE8900

機能	VE8900T	VE8900R
デバイス接続数	1	-
ビデオ入力		
インターフェース	HDMI Type A メス×1 (Black)	-
インピーダンス	100 Ω	-
最大距離	ソースデバイスとの最大距離: 2 m	-
ビデオ出力		
インターフェース	-	HDMI Type A メス×1 (Black)
インピーダンス	-	100 Ω
オーディオ		
入力	HDMI Type A メス×1 (Black) ステレオミニジャック×1 (Green)	-
出力	-	HDMI Type A メス×1 (Black) ステレオミニジャック×1 (Green)
制御		
RS-232	コネクタ: 3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:なし、フローコントロール:なし	コネクタ: 3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:なし、フローコントロール:なし
IR	ミニジャック×1 (Black)	ミニジャック×1 (Black)

(表は次のページに続きます)

機能	VE8900T	VE8900R
USB	USB Type B メス×1 (White)	USB Type A メス×2 (Black)
コネクタ		
ユニット間	RJ-45×1	RJ-45×2
ビデオ		
解像度/距離	最大 1080p/100m (カテゴリ 5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)	最大 1080p/100m (カテゴリ 5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)
最大データ伝送速度	平均 150~500Mbps	平均 150~500Mbps
規格準拠	HDMI、HDCP 1.4	HDMI、HDCP 1.4
プッシュボタン		
ID 番号選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×3
電源		
コネクタ	ロック式 DC ジャック×1 (Black)	ロック式 DC ジャック×1 (Black)
消費電力	DC5V:3.07W:14BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。	DC5V:4.28W:41BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。
動作環境		
動作温度	0~40℃	0~40℃
保管温度	-20~60℃	-20~60℃
湿度	0~80% RH、結露なきこと	0~80% RH、結露なきこと

(表は次のページに続きます)

機能	VE8900T	VE8900R
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.50 kg	0.49 kg
ブラケット付きサイズ (W×D×H)	141×123×31 mm	141×123×31 mm
ブラケットなしサイズ (W×D×H)	136×101×30 mm	136×101×30 mm
同梱品	電源アダプター×1 3極着脱式ターミナルブロック ×1 クイックスタートガイド×1	電源アダプター×1 3極着脱式ターミナルブロック ×1 クイックスタートガイド×1

VE8950

機能	VE8950T	VE8950R
入力接続数	1	-
ビデオ入力		
インターフェース	HDMI Type A メス×1 (Black)	-
インピーダンス	100 Ω	-
最大距離	ソースデバイスとの最大距離:2 m	-
ビデオ出力		
インターフェース	-	HDMI Type A メス×1 (Black)
インピーダンス	-	100 Ω
オーディオ		
入力	HDMI Type A メス×1 (Black) ステレオミニジャック×1 (Green)	-
出力	-	HDMI Type A メス×1 (Black) ステレオミニジャック×1 (Green)
制御		
RS-232	コネクタ: 3 極着脱式ターミナル ブロック×1 ボーレート:19200、データビット: 8、ストップビット:1、パリティ:なし、 フローコントロール:なし	コネクタ: 3 極着脱式ターミナルブ ロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ス トップビット:1、パリティ:なし、フローコ ントロール:なし
IR	ミニジャック×1 (Black)	ミニジャック×1 (Black)
USB	USB Type B メス×1 (White)	USB Type A メス×2 (Black)
コネクタ		
ユニット間	RJ-45×1	RJ-45×2
ビデオ		
解像度/距離	最大 4K*/100m (Cat5e/6 ケーブル 使用、1 対 1 接続の場合)	最大 4K*/100m (Cat5e/6 ケーブル 使用、1 対 1 接続の場合)
最大データ伝送速度	平均 150~500Mbps	平均 150~500Mbps
規格準拠	HDMI (4K*)、HDCP1.4	HDMI (4K*)、HDCP1.4
プッシュボタン		
ID 番号選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×3

(表は次のページに続きます)

機能	VE8950T	VE8950R
電源		
コネクタ	ロック式 DC ジャック×1 (Black)	ロック式 DC ジャック×1 (Black)
消費電力	DC5V:3.08W:14BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。	DC5V:4.53W:43BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。
動作環境		
動作温度	0~40℃	0~40℃
保管温度	-20~60℃	-20~60℃
湿度	0~80% RH、結露なきこと	0~80% RH、結露なきこと
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.50 kg	0.49 kg
ブラケット付きサイズ (W×D×H)	141×123×31 mm	141×123×31 mm
ブラケットなしサイズ (W×D×H)	136×101×30 mm	136×101×30 mm
同梱品	電源アダプター×1 3 極着脱式ターミナルブロック×1 クイックスタートガイド×1	電源アダプター×1 3 極着脱式ターミナルブロック×1 クイックスタートガイド×1
注意	※対応する 4K 解像度は、3840×2160@30Hz(4:4:4) 、 3840 × 2160@60Hz(4:2:0) 、 4096 × 2160@30Hz(4:4:4) 、 4096 × 2160@60Hz(4:2:0)です。	※対応する 4K 解像度は、3840×2160@30Hz(4:4:4) 、 4096 × 2160@30Hz(4:4:4)です。

VE8952

機能	VE8952T	VE8952R
入力接続数	1	-
ビデオ入力		
インターフェース	HDMI Type-A メス×1 (Black)	HDMI Type-A メス×1 (Black)
インピーダンス	100 Ω	100 Ω
最大距離	ソースデバイスとの最大距離: 3 m (2L-7D03H 使用)	3 m (2L-7D03H 使用)
オーディオ		
入力	HDMI Type-A メス×1 (Black) ステレオミニジャック メス×1 (Green)	HDMI Type-A メス×1 (Black) ステレオミニジャック メス×1 (Green)
制御		
RS-232	コネクタ: 3 極着脱式ターミナル ブロック×1 ボーレート: 19200、データビット: 8、 ストップビット: 1、パリティ: なし、 フローコントロール: なし	コネクタ: 3 極着脱式ターミナルブ ロック×1 ボーレート: 19200、データビット: 8、 ストップビット: 1、パリティ: なし、フ ローコントロール: なし
IR	ミニジャック×1 (Black)	ミニジャック×1 (Black)
USB	USB Type-B メス×1 (White)	USB Type-A メス×2 (Black)
コネクタ		
ユニット間	RJ-45 メス×1	RJ-45 メス×2
電源	ロック式 DC 電源ジャック×1 (Black) または RJ-45 メス (PoE) ×1	ロック式 DC 電源ジャック×1 (Black) または RJ-45 メス (PoE) ×1
ビデオ		
解像度/距離	最大 4K*/100m (Cat5e/6 ケーブル 使用、1 対 1 接続の場合)	最大 4K*/100m (Cat5e/6 ケーブル 使用、1 対 1 接続の場合)
最大データ伝送速度	平均 150~500Mbps	平均 150~500Mbps
規格準拠	HDMI (4K*)、HDCP1.4 準拠	HDMI (4K*)、HDCP 準拠
プッシュボタン		
ID 番号選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×3

(表は次のページに続きます)

機能	VE8952T	VE8952R
電源		
消費電力	DC5V:3.49W:16BTU/h POE:4.36W:20BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。	DC5V:5.22W:46BTU/h POE:6.52W:52BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。
動作環境		
動作温度	0~40℃	0~40℃
保管温度	-20~60℃	-20~60℃
湿度	0~80% RH、結露なきこと	0~80% RH、結露なきこと
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.67 kg	0.68 kg
ブラケット付きサイズ (W×D×H)	170.2×146.9×30 mm	170.2×146.9×30 mm
ブラケットなしサイズ (W×D×H)	166×124.9×29 mm	166×124.9×29 mm
同梱品	3 極着脱式ターミナルブロック×1 電源アダプター×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1	3 極着脱式ターミナルブロック×1 電源アダプター×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
注意	※対応する 4K 解像度は、3840 × 2160@30Hz(4:4:4)、3840 × 2160@60Hz(4:2:0)、4096 × 2160@30Hz(4:4:4)、4096 × 2160@60Hz(4:2:0)です。	※対応する 4K 解像度は、3840 × 2160@30Hz(4:4:4)、4096 × 2160@30Hz(4:4:4)です。

対応ブラウザ

本製品に対応しているウェブブラウザおよびバージョンについては下表を参照してください。

ウェブブラウザ	対応バージョン
Google Chrome	60.0.3112 以降
Mozilla Firefox	54.0.1 以降
Opera	46 以降